



SPUR

Circle for Elegant Ski



2018-2019 SEASON

はじめに・・・

皆様こんにちは、第53代渉外部の鈴木と申します。

エレガントスキー部では毎年SPURというものを書いています。SPURとはドイツ語で「軌跡」という意味を表す単語であり、スキーにおいては「自分が滑った後」を意味します。部員の皆さんにはSPURを書くことによって、自分が一年間どのような「軌跡」をたどってきたのかを振り返る良い機会になったと思います。

SPURの内容はスキーの技術的な面から、いつもは表に出していない内面的な面まで部員によって様々です。ただ、スキーに対する情熱やエレガントスキー部を思う熱い気持ちは皆に共通していることを感じていただけたと思います。

今年度をたくさんの一年生が入部してくれました。一年生の皆には是非読んで欲しいです。普段とは違った先輩の一面を発見できると思います。また、先輩たちの軌跡を参考にして充実した一年間を過ごしてほしいと思います。

このSPURには部員一人一人の気持ちが込められています。ぜひ最後まで読んでいただきたいです。

2019年8月
第53代執行部渉外担当
鈴木 良育

第51代会長 諸我俊

エレの優勝のためには、エレを楽しむためには、エレ全体がチームとしてまとまっていることがとても大切だと思います。昨シーズンはエレ全体のために四年として良き振舞いをするを目標にしていました。四年の振舞いはエレのまとまりを根本的な部分で支えていると思います。軸を保って全員で目標に向かっていく際に、年目で最も上の立場である四年の振舞いが不適切だとチームとして締まりがなくなります。逆に四年の振舞いが良ければ、チームをまとめることもできると思います。当たり前のことを当たり前にする、上手い滑りをし結果を出すこと、きちんと指導すること、エレを楽しむこと、様々な要素があると思いますが、僕個人でどれくらいできたかは不安です。しかし、至らない部分もあったとは思いますが、四年全体としては、皆で補い合いながらやっていけたのではないかと考えています。なので同期には感謝しています。本当にありがとう。

昨シーズンは二年を弟子に持ちました。その前のシーズンで一年を弟子に持った時とは異なり、自分で自分の滑りを考えてもらうため、役に立ちそうな僕の経験や考えていることなどの情報を公式練で伝え、成長させるというスタンスでやっていました。それぞれチームで教わっていること、自分で考えてやっていること、先輩から教わることがある中、公式練の時間は三人とも素直に僕の要求通りに表現してくれました。なので、僕の教えたい内容を好きなように教えることができました。有難かったです。自分が弟子を成長させたか、滑りを変える手伝いできたかはわかりませんが、三人とも確実に上手くなっていたと思います。公式練の動画を見直したのですが、僕が伝えたかった要素を三人とも表現できていたので、他の誰かから教えてもらったときにその時の感覚が蘇って、成長に繋がっていたら嬉しいなと思います。公式練楽しかったです。

今回の岩岳大会は自分が参加してきた大会の中で最も楽しい大会だったと思います。スーパーシードという上手い人ばかりの恵まれた番号で滑ることができ、その中で競い合うことができたので、常に順位を意識しながら滑ることができ、今までとは異なる緊張感を味わうことができました。また、他の大学の選手とも話しながら、情報交換しながら試合ができたのも良い経験でした。総合優勝争いは熱い戦いので良かったが、やっぱり優勝したかったです。

今四年間を振り返ってみると、仲間ができ、様々な楽しみを覚えることができ、たくさんの思い出ができ、エレでの経験はかけがえのないものだったと思います。

エレの活動に協力してくださっているコーチの方々や先輩方、陰ながら支えてくれていた家族、エレの皆さん、関わって下さったすべての皆さんに感謝しています。

卒論との兼ね合いになると思いますが、今年もスキーするつもりです。よろしくお願ひします。

第51代副会長 伊藤隼大

このSPURは後輩のみんなに向けて書きます。大事だと思うことだけ書きます。

1. 人を大切に、常に感謝する
2. どんなときでも笑顔を忘れない
3. 変化を恐れない

1. 人を大切に、常に感謝する

「人に感謝しなさい」と誰でも言われたことがあるはず。しかし、なぜ感謝しないといけないのか、自分なりに考えたことがあるだろうか。一度考えてみてほしい。私はどんな時でも人に感謝し、大切にしている。それは、周りの支えがなければ自分の人生はないと思っているからだ。落ち込んでいるときや上手くいかないとき、友達や家族が救ってくれた経験はみんなあると思う。日頃から周りの人を大切にしていれば、困ったときに必ず救ってくれる。忙しいときや疲れているときは自分勝手になりやすいので、そんな時こそ周りに気を配ることを意識する。

2. どんなときでも笑顔を忘れない

楽しいから笑うこともあれば、笑っているから楽しくなるということもある。つまり笑顔でいることが大事。ばかばかしいと思わず、苦しい時ほど笑ってごらん。なんか楽しくなってくるよ。笑顔でいれば周りの人が助けてくれるよ。

3. 変化を恐れない

変わることを恐れてはならない。毎日いろんなこと経験しているのだから、変わることは当たり前。新しい自分に気づいて新たな挑戦をすることでしか得られないものは沢山ある。やるかやらないか迷ったらとりあえずやってみよう。自分にはできないと決めつけしないで、まずはやってみよう。

北野 雄大

早いもので、エレに入ってもう5年が経ちました。

まずはOBとなった年にSPURを書かせていただけることに感謝します。ありがとうございます。

4年目となった昨シーズンは、同期もそれぞれ研究室などが忙しく、全員で現役として活動することはできませんでした。その中で、自分自身もどの様にエレに関わっていくかを考えていました。前期のうちは研究室も忙しく函館にいてもあり、岩岳に出る気はありませんでした。エレの優勝には貢献したいと思っていて、選手以外のところでサポートをしようと考えていました。後期になって、男子では白鳥、俊、悠太郎が岩岳に出場することを知りました。そのことを知ってからだんだん自分も岩

岳に出たいという思いが強くなってきました。シーズンに入ってから平日は研究室を頑張り、週末はスキーに行くという生活を繰り返しました。結局、3年の時とあまり変わりませんでしたね。

4年目のシーズンは滑りとしては調子が良い日と悪い日の差が大きく、全体的に安定していませんでした。

滑りが定まらないまま、道大会、個人戦選考会を迎えました。どちらも滑りは納得行くものではなく悔しいものでした。岩岳までに調整すると言いながらも内心はとても焦っていました。岩岳に入ってから滑りは安定せず、思う様にいかない順位で終えてしまいました。

正直、めちゃくちゃ悔しかったです。4年目としてエレを引っ張っていく立場として、情けない順位でとても申し訳なく感じました。

そして総合優勝にも届かず結果としては納得がいけないまま現役最後の岩岳が終わりました。自分があの時何点とってれば、あの滑りをしていたら…という思いはぬぐえません。・・・あとハイエース擦りました。警察呼びました。めっちゃ焦りました。すみません。4年目の結果は正直満足いけるものではありませんでした。でも4年間の活動はとても充実していました。あっという間に4年間が終わりすぎて正直びっくりしてます。同期に恵まれ、後輩に恵まれ、先輩に恵まれた4年間でした。みんな本当にありがとう。同期がスキー馬鹿ばっかで本当に良かった(笑)

追いコンでも話しましたが、僕は本当にエレが好きです。目標に向かってみんなで真剣に向かっていく姿は結果がどうであれカッコいいです。その過程でみんなで共有した様々な楽しみや苦しみや思いはとても特別なものだと思います。もちろん優勝できれば文句なしです(笑)

そして結果はどうであれエレに入って良かったなと思える素敵な4年間を作ってください。偉そうなことってすみません。多分、今年はおとなしくします。フラグっぽいな。

とりあえずみなさん4年間本当にありがとうございました!!!

白鳥宏太

引退して2カ月が経って、段々と冷静に、客観的に、4年間の活動を振り返ることができるようになりました。まず一番に言いたいことが感謝の気持ちです。先輩や後輩、同期、スキーを教えてくださったコーチの方、山本先生、すべての方に助けられて4年間多くの経験を積むことができました。本当にありがとうございました。

4年生としての1年間、本当に充実していました。エレガントスキー部に捧げて良かったと思えます。同期、後輩、弟子との時間は本当に楽しかったです。これだけ、尊敬のできて信頼のおける同志が周りにいたことは本当に幸せなことだと思います。気持ちが張り詰めたりすると、どうしても忘れがちになってしまうことだけど、周りの人がいなくては自分は成り立ちません。周りに気の合う仲間がいないと楽しい気持ちは味わえません。このことはエレガントスキー部を引退してから強く感じたことです。エレガントスキー部には自分に合う環境があって、自分を形作ってくれる仲間がいます。この環境を作っているのは部員と、各部員の共通目標です。エレガントスキー部として岩岳で優勝するという心です。なので、このどちらも欠かしてはいけません。目標を疎かにしても、部員が欠けていってもだめです。部員みんなで同じ方向を向くことが大事です。優勝することに対して、懐疑的な気持ちになるこ

とはあるとは思いますが、その気持ちを失ってしまうと、エレガントスキー部が違うものになってしまうはず。きっと、より苦しい選択にはなりますが、それを承知の上で、優勝を掲げて頑張っていてほしいです。心から応援しています。

高田悠太郎

まず唐突ですが、4年間お世話になりました。なんだかんだこのサークルに入ってた本当に良かったと思ってます。

エレガントスキー部の事を知ったのは北大二次試験の前でした。配布されているサークル紹介のパンフレットに偶々載っているのを見つけて、気になってネットを検索したのがきっかけでした。この頃受かったらサッカー部もしくはサークルに入ることしか考えてなかったので、ブログを見て、スキーやるのも楽しそうだなあと心が揺れたのを今でも覚えています。そこから紆余曲折ありましたが、2年生の時に入部しました。

入りたての時はかなりインラインをしていた記憶があります。エレに入って初めてスケートをしたのですが、今思えば大分上手くなったなと思います笑。1年目の頃、インライン技選があったのですが、先輩に勝てなくて、とても悔しい思いをしたのが良い経験でした。この頃から真剣に滑りについて考えるようになったと思います。

同期、先輩後輩とスキーを教えあって切磋琢磨し合うことがすごく楽しかったです。一時期学業ほったらかしにするくらいには練習しました笑。学校には本当にちゃんと行きましょう。学業あつてのスキーです。

自分が1年目の頃、お金かけてやるからには、全日本に行けるくらい上手くなる事、エレと基礎の中で一番上手くなる事が密かな目標でしたが、結局4年まで達成出来ませんでした笑。でも4年間通て良いモチベーションになりました。結果が出て一番嬉しかったのは初めて団体優勝出来た時だったと思います。ビビりで全くついていけなかった自分を励ましてくれた先輩には感謝で一杯です。スキー以外の点で、特に同期には迷惑かけた事が多かったです。本当にクズですみません。仲間は大切にしましょう。

今年も岩岳総合優勝させてあげたかったけど、中々厳しかったです。最近の総合優勝はそんなに甘くないなと思いました。来年こそ男女総合優勝できるように、みんなで支え合って頑張ってくれると嬉しいです。

最近、本田圭佑が言っている「成功に囚われるな成長に囚われろ」という言葉が個人的にマイブームなんですけど笑、努力した結果必ず成功するとは限らないけど、必ず成長はしていると思います。基礎スキーで自分の滑りに納得する事は少ないです。しかし、練習した結果それが例え正しい滑りで無くても、その失敗した滑りは良い滑りにいつか繋がると僕も信じてます。成長する事を楽しめれば、どんどんスキーが楽しくなると思います。

後で見た時に恥ずかしくなる文章を書いた所で終わりにします笑。これからもスキーを楽しんで頑張ってください。応援してます。

中嶋亜衣子

まさか4回目のSPURをかくとは思っていませんでした…笑。今度こそ最後のSPURですね。私が現役生活4年間を終えて一番伝えたいのは全力で頑張ったほうが案外楽しいということです。

私、本当はエレをずっと辞めたかったんです。スキーが楽しいと思えなくて義務感に駆られて練習しているだけで、段々何のためにスキーをしているのかわからない、1,2年生の時はそんなことばかり考えていました。こんな気持ちでやっていたのだからそりゃ結果も出ないよね、って感じです。2年生の終わりでやめると決めて、それまでは自分なりに真剣にスキーに取り組んでいたつもりではあったけれど、今思えば所詮つもりだったのでしょう。二年生でも結果は出ませんでした。そこで結果を出さないまま辞めるのが悔しくて続けることにしたのですが、この時にたくさん悩んだことで3,4年の二年間全力でスキーに打ち込めたのだと思います。

3年生の藻岩での練習から私はすべて朝1希望をとりました。そして無駄に一日休憩は最大1時間半と決めて、ひたすらに、がむしゃらに滑っていた気がします。4年生でもそれを続けました。4年生では1回朝1希望が通らず、連続朝1チャレンジ記録に終止符が打たれてしまい、残念でした。笑 ですが、それほど朝1を希望する後輩が増えたことに誇りを感じています。最後の2年間、自分なりに全力で、倒れてもいいくらいの気持ちで取り組んでみましたが、これが不思議と辛くなく、いや、辛くないといえば嘘になるけど、全力で取り組んだほうがその分楽しくて、もう辞めたいっていう気持ちはどこかに行ってしまうました。

4年の一年間は今までとは違う経験をたくさんさせていただきました。少ない同期、師匠、団体。楽しかったことばかりではないけれど、4年の一年間、現役を続けることができ本当に良かったと思っています。

4年になって初めてした師匠。弟子の二人は私というハズレくじを引いたと思ったのではないのでしょうか…笑。けれど、私は嶋田さんと由依ちゃん二人の師匠ができて幸せでした。弟子二人の頑張る姿には何度も励まされましたし、二人に恥ずかしい姿を見せられない…!という思いは活力にもなりました。この1シーズンでも上手くなったと思いますが、努力家の二人だからいつか爆発的成長を遂げてくれると私は思っています。これからも応援し続けます。

団体も初めての経験でした。3年生で団体メンバーから外れた時はもう自分が団体をすることは無いと思っていました。でも、何とか団体練に全参加できるスケジュールを組むことができ、団体を経験することができて本当に良かったです。団体のプレッシャーや大変さ、難しさを身をもって知ることができました。一緒に団体をしたふみちゃん、きさき、おっちー。全然上手いかわなくて渋さを感じてばかりだったし、表彰台に乗れなかったことはすごく悔しかったけれど、みんなのおかげで今やってよかったなという気持ちになれているのだと思います。ありがとう。

4年間を通して本当にたくさんの人に出会い、支えられてここまで来ました。まさか自分が北海道に来るとも、そこでスキーにこんなに打ち込むとも思っていませんでした。ですが、この道を選んでよかったと心から思います。今までお世話になった中川さんをはじめとする多くのコーチの方々、先輩方、同期、後輩、皆様に厚く御礼申し上げるとともに私のSPURを終えたいと思います。

中村結衣

お久しぶりです。OB1の中村結衣です。まさかOBになってまでSPURを書くことになるとは思っていませんでしたが、そういえばOBにSPUR書いてくださいって言いだしたのは自分たちの代からだだったので、文句を言わずに書きたいと思います。

さて、何を書こうかと考えながら昨年度のSPURを眺めていたら去年の自分の抱負が目に入りました。「4年目なのであまりはしゃぎすぎないように、できる限り後輩たちの力になりたい」と書いていました。すいません。はしゃぎすぎました。以後気を付けます。

気を取り直して、4年目を振り返っていこうと思います。まあなんとかやるの精神で現役を続けることにしたわけですが、時間をどのように使うか、後輩たちの力になるにはどうすればいいかを考えながら活動した1年であったなあと思います。前半に関しては、スキーシーズンに入り、週1、2しかスキーに行けないという状況になってすごく感じました。いかに土日に実験を持ち越さないようにスケジュールを組むか、短い練習時間でどのように練習すればいいかを考えて滑ることで時間の使い方がうまくいったような気がします。後半に関しては、特に女子のことにに関してが大きかったです。執行部だったときと比べて同期が減ったのもあって責任がすごく増えました。団体のことなどは執行部のときよりもいろいろ考えた気がします。頼りなかったかもしれませんが、何らかの足しになっていたなら嬉しいです。

最後に、私が4年間エレで過ごしてこられた、過ごしたいと思わせてくれたのは、エレという空間を作ってくれた先輩方、後輩たち、そして同期のみんなのおかげです。ありがとうございます。本当に4年間やってよかったし、楽しかった思い出がいっぱいです。今年度はスキーはあまりできないと思いますが、ちょくちょく顔は出したいと思っているので見かけたら声をかけてください。

吉羽輝咲

まず、今まで指導して下さったコーチの方々、先輩の方々、支えて下さった同期、後輩の皆さん、4年間本当にありがとうございました。4年間という長いようであつという間だった時間の中で、本当に様々なことを学びましたし、自分自身も大きく成長できました。つらいこともたくさんあったけれど、諦めずに現役として最後までやり遂げて本当に良かったと思っています。

4年目になってからは、執行部という重圧が取れたこと、また比較的時間があつたこともあって、自由にスキーが出来たように思います。シーズン中は、特に最後だからといった思い入れはなく、「スキーが楽しい」「弟子にちゃんとスキーを教えてあげたい」「痩せたい」の3つをモチベーションに頑張りました。

やっぱり弟子の存在は大きかったです。2人とも毎週見るたびごとに必ず1つ以上は出来ることを増やしてきていて、本当にびっくりされっぱなしでした。2人の伸びに負けてられない、このままじゃ教えてあげられることなくなる、って思って割と焦って練習していくうちに次第に自分も上手くなれまし

た。2人には本当に感謝しています。ありがとう。不甲斐ない師匠で申し訳なかったです。来年は私よりもずっと上手い師匠が見つはずだから、もっと上手くなれます。応援しています。

もう終わったことだし、岩岳をはじめとした個人の結果については振り返るつもりはありません。また、来年度は色々あって、スキーとは距離を置くことにしました。でも、機会があれば滑りに行きたいと思いますし、たまに会った時には話しかけてくれるととても嬉しいです。

最後になりますが、後輩のみなさんへ。大会などで結果が良くてもダメでも、毎回何かひとつは今後にかせるものを得るようにしてください。1つとして無駄になるものがないようにしてください。また、もし1%でも可能性があるならばエレは現役として4年間続けてください。絶対に後悔はしません。以上です。頑張っってね。

最後になりますがもう一度。4年間本当にありがとうございました。

<4年目>

第52代会長 中村凌太郎

まず、はじめに、この場をお借りしまして、今年度スキーを教えてくださいくださったコーチの方々、我々の活動を陰ながら見守ってくれていた顧問の山本先生、エレガントスキー部の活動に、ご支援やご協力をしてくださる OBOG の皆様、そして遠くからいつも応援してくれる家族に、大変感謝申し上げます。

今年度は、エレガントスキー部と出会って3年が経ち、執行部そして部長として部を運営していく立場となりました。執行部はじまる時、昨年、6連覇を目指して戦った岩岳で優勝を逃し、その場にいることができなかつた自分に、悔しさと全力で戦っていた先輩、同期、後輩に申し訳ない気持ちがありました。優勝を奪還、男女ともに総合、団体優勝という大きな目標を掲げ、部員全員でスキー技術の向上を目指すと決めました。

しかし、最初は部長としてうまく部を動かすことができないことも多く、正直、最初の半年間は、精神的にも肉体的にもきつかったです。ただ、先輩や同期にすごく助けられました。その中でも、強い責任感をもって、誰よりも奮闘し、僕の後ろではなく常に横を一緒に歩んでくれた憲太郎には、とても感謝しています。部長として立っていられたのは、間違いなく彼の力がとてつもなく大きく、自信をくれました。

また、今年度は災害や悪天候、雪不足で予定していた行事が思うように開催できませんでした。トレ合宿だけは完璧な天候でしたね。(笑) 何かに呪われているのか、というくらい次から次へと問題が起こった年であり、北海道神宮までお参りにもいきました。効果があったかはわかりませんが…。

不安を抱えながらも、シーズンがはじまり、今年から師匠という大きな役割もありました。私の弟子を一言で言うなれば、お笑いトリオ。3人とも個性があり、練習ではいつも三段オチをかましてくれました。

加納は、スキーがうまくて、最初は言うこと聞かないかなあ、と思っていましたが、1番まじめに練習してくれました。常に自分で考え、うまくなることだけ考えているところはとてもいい刺激になりました。

た。表彰台にも乗って有言実行してくれました。ほんとに師匠として誇りに思います！しんじは、超真面目だったので、一番私の滑りになってしまいました。悪い癖を身につかせてしまったことはすみません。ほか2人をうまく取り持って、師弟内のバランスをうまく保ってくれたことはすごくありがたかったです。岩岳では意地の9点を取ってくれました。厳しいローテの中、誰よりも大きな点を勝ち取ってくれたことは、とても嬉しく思います！しまこうはスキーでいつも“わかりません”って言ってたかな。もっとうまく教えられたらよかったなと反省しています。いつも期待を裏切らない君に何度も楽しませてもらいました（笑）ありがとう。ケガをしながらも、全力で岩岳を滑りきった姿はとてまかつよかったです！自分の事だけではなく、弟子三人がどうすればうまく成長できるかも考えなければならない部分は難しさを感じました。それと同時に、師匠だった栗城さんや割田さんは凄かったことを思い知らされました。弟子3人とも、とても素直に、まじめにスキーに取り組んでくれたし、何よりスキーを楽しむように常に伝えていたので、これからも楽しくやってもらいたいです。こんな出来損ないの師匠に文句1つ言わず、最後まで信じてついてきてくれたこと、本当にありがとう。とても楽しかったです。

師匠としてはそれなりに頑張れましたが、個人としてのシーズンはよくなかったです。目標としていた道大会には出られず、選考会も個人補欠となってしまいました。入部してから一番練習をしましたが、この結果。納得いかないことも多かったです。ただ、団体メンバーに入ることができました。これが、シーズンの一番のモチベーションになったと思います。団体の権利を得ながらも、自分の欲ではなく、チームを一番に考えて、私に団体を託してくれた諸岡には、感謝しています。

なんだかんだ時は過ぎ、岩岳大会を迎えました。個人戦メンバー、1年生が頑張ってくれたおかげで、個人・新人が終わった段階で男子2位、女子3位。僅差での戦いをしていました。団体から選手として部長として最後に課された大きな仕事だと思い、“絶対にひっくり返す”という気持ちで滑りました。トップである自分が完璧に滑ることだけを考え、自分のやれることを必死にやり通しました。決して団体メンバーみんな、ミスはしていません。しかし、結果は総合2位で終わりました。とても悔しかったです。言葉では形容しがたい、なんとも言えない気持ちになりました。そして、自分の力不足を大きく痛感しました。みんなには、部長として最後に期待に応えることができず、申し訳なく思っています。

しかし、目標とする優勝には届かなかったものの、例年以上の結果を出してくれました。個人では憲太郎が5位、新人では加納が8位、団体では男子A,Bともに表彰台。これまでにないくらい表彰式が楽しかったです。特に、弟子の加納が壇上にあがったときは、とても嬉しかったです。正直欲張りすぎたくらい嬉しさ、喜びの連続でした。総合成績だけはあと一步、ほんのわずか届きませんでした。力を出し尽くしました！みんなとても頑張ってくれました！相手が強かった、と讃えるべきだと思います。

改めて今年度を振り返って、苦しい時間が多かったと思います。そして岩岳では死ぬほど泣きました。でも、それ以上に喜びや楽しさを感じることができました。これほどまで感情を出すことができたのは、ひたむきに頑張ってきた証拠だと思います。来年からはどんどんエレに関わる時間が短くなりますが、届かなかったあと“59点”、残りの大学生活でエレのために、自分のできる限りを尽くして、貢献していきたいと思います。そして、1年間こんな私を部長として支え、付いてきてくれた現役部員のみんなに感謝申し上げます。来年以降、エレガントスキー部がより強く、より楽しく、よりいい部に、そして岩岳で男女ともに優勝ができるようになってくれたらと思います。

第52代副会長 川上憲太郎

今回で3回目のSPURを書くことになった。今年はエレガントスキー部の副会長として1年間やってきた思い出でも書いていこうと思う。

去年岩岳での優勝を逃してしまい、僕たちの代が真っ先に言ったのは「今年は優勝する」ということだった。僕たちの代は1年生の時に5連覇目を経験していたせいで、優勝することは当たり前で簡単なことであると思込んでいたんだと思う。そのせいで2年生の時に圧倒的な実力差を見せつけられ、やっぱり勝負の世界はそんなに甘いものではないことを痛感した。もうあんな悔しい思いをしたくないはない。そんな気持ちで「今年は優勝をする」ということを決めた。

しかし、優勝するためには充実したトレーニング環境や仲間との信頼関係、エレであることの自覚などの様々な条件をクリアしていかなければならないと感じた。

僕たちの代は自然災害に活動を邪魔されることが多かった。トレがつぶれたり、合宿もなくなったりと上手く計画通りにいかないことが続いた。他にもいろいろあって行事が減り、部員同士の交流の機会も少なくなってしまった。さらに人数も増え、歴代で一番人数が多い年(たぶん)になったせいで僕たち執行部の声がいろんな意味で届かないことが多かった。この大人数をまとめるには個人個人に自覚を持たせることができないと厳しいと感じた。

何が言いたいのかというと、エレガントスキー部というサークルが優勝するためには一人ひとりが自覚を持ち、互いに絆を深め合い、スキーをうまくなる、こういう必要があると感じた。

そう感じた時に改善しようと動けばよかったのだが、残念ながら僕たちの代はなかなか自分から動くとしてくれる人が少なかった(自分もそうだが)ため、よくはならなかった。周りから見たら自由な学年に見えるかもしれないが、自分で言うのもなんだが縛られに縛られた代だったと思う。スキーはそんなに上手い代ではなかったが、上下左右から問題が絶えず飛んでくる状況でうまく裁いていったものだともほめてもらいたい。大きな問題からくだらない問題までいろんなことがあったがこの同期だからこそうまく解決できたと思う。

自覚という言葉を出したが、いろんな場面で自覚が問われると思う。まずはスキーヤーであること。スキー部に入っているのだから当たり前なのだが、スキーヤーとして必死に練習する自覚は持たなくてはならない。次に学生であること。大学生なので学業やバイトなどの両立が大事である。特に学業をおろそかにして大変な目に合ってきた先輩(同期も)を見てきたので、学生であることの自覚を持ってほしい。最後に集団の一員であること。これが一番自覚できていない人が多い。集団でいる際に自分がどのような行動をするべきなのかを分かっていない人が最近増えてきている。前もって頭を使って考えることで、迷惑をかけるようなことはしないようになると思うので、人間である以上、最低限のマナーや常識をもってエレの活動に参加して欲しい。みんなで楽しく活動していきたいので、これを読んだ人は少しでも心がけてくれると、このサークルも長続きすると思います。

お説教っぽくなってしまったので話をもとに戻そうと思う。エレにいと嫌でも仲間と一緒にいる時間が長くなる。夏も週3回会って、冬なんて毎日のように会っていたら嫌でも仲良くなると思う。不満を持つことは確かにあるけれど、かけがえのない仲間だからこそ怒ったり、喧嘩したりすることが大事である。僕はミーティングでもずっと怒りっぱなしで、そういうイメージしか持たれていないかもしれないが、怒りたくて怒っていたわけではなく、より良くなってほしいという思いで怒ってました。本音

を言える仲になれることで真の絆は生まれると思います。部全体が上下関係なくそれくらいの仲になればという思いでした。

この大きな団体をまとめることに必死な1年間でした。岩岳の結果から言うと、また負けてしまった、という感じです。個人戦はまあ運で表彰台に乗れたのでまあよかったです、団体と総合では今年もテッペンをとることができなかった。

今年は運も重なりかなり惜しいところまでいった。特に当時の2年生の成長には驚かされた。さすがスキー馬鹿な代だと感じさせられた。また1年生も健闘してくれた。表彰台はもちろん、ポイントをとった人、惜しくも届かなかった人いろいろいるけど雪が少なくて大変なシーズンだったのに本当によくまとめてくれたと思う。4年生は忙しいのにも関わらずスキー場にたくさん来てくれて、教えていただいたりして頼りになる先輩たちでした。3年生はスキーは下手くそだったけど、岩岳では結果をしっかりと残してくれたし、サポートの面でもこれ以上ないくらい最高の仕事をしてくれた。本当に感謝します。

各学年が1年間の思いをぶつけた岩岳大会でしたが、優勝できなかった。どうしてできなかったのかはいろいろあるとは思いますがそれは次の執行部に任せていきたいと思います。彼らがどんな風に優勝へと導いてくれるのか楽しみです（プレッシャー）。

今年はずいに4年目として活動する。研究室は忙しいし、卒論の日程も岩岳と被るかもなのでどれくらいエレに関わっていけるかが正直心配だが、自分に与えられた役割を考えながら行動していけばよい結果に結びつくのではないかなと感じている。

今シーズンもたくさんのコーチ、OB・OGさん、先輩・後輩、その他の方々にお世話になりました。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。今シーズンも頑張るのでその際はどうぞよろしく願いいたします。

今年こそ最高の笑顔で。

赤岩愛記

3回目のSpur、、、書き慣れたものですね。3年生を振り返ります。

いきなりメインディッシュから。岩岳について語らないわけにはいきませんね。ちょうど1年前、そしてシーズン初期に叫んでた岩岳リベンジはどこへやら。情けなかったですね。実家の車をお借りできたので週末スキーヤーになるという最悪のシナリオを回避し、それでも毎日のように行けてたわけではなかったですが思っていたよりは練習できたのかなと思う中で……。エレも研究室も中途半端になってしまい結果的に不完全燃焼で終わってしまったなというのがまず出てくる感想です。もっと頑張れば良かった。もっと頑張れたはず。何度思ったことだか(いまでも思います)。起こるイベント、わき上がる気持ちが総じて負に埋め尽くされた平成最後の冬でした。

いろんな試験も終わり研究室も一段落した3月、なにかが吹っ切れたからかどうだか、朝里大会では満足する結果で終わったことが唯一の救いです。小回りとかぶの点数(順位)が得意だった大回りよりもなかなか高く、シーズン中ずっっと小回りをしてきた成果がやっとでました(ずっと小回りをしてきた理由は察し)。

……特別 Spur に書き残すことはこのくらいかなと思います。他にもエレガントバスケット部とか広報部とか(道大会記念出場とか)とかとか。どれも貴重な経験をさせていただけたなと思っています。たくさんの迷惑をかけながらも(ホントにたくさんの大迷惑をかけました……汗)、この1年間支えて下さった同期はじめ先輩方1,2年生の皆さんには感謝でいっぱいです。弟子3人にも恵まれたなと思っています。いつも話が長くなってごめんね。とても感謝しています。

もう4年目。ローガイポジションかと思うとまだ受け入れがたい(信じがたい)気持ちもありますが。この3年間のエレの行事はいま振り返るとどれも本当に楽しかった(※一部を除く)ので、4年目も4年目なりに関わって、そして4年目としてふさわしい関わり方で楽しんでいきたいなと思います(良い意味で)。

浅尾真結子

昨シーズンは、エレで活動する最後のシーズンだという思いが最初からあって、だから、悔いのないシーズンにしたいという思いが強かった。

1年目のときに憧れていた上級生になれたらどうか…私のエレにいる目的は最終的には憧れられる先輩になること！だったと思います。

1年目のとき、上級生はかっこよくてキラキラしているようにみえた。その先輩たちを私はすごく憧れていて、先輩たちがやっていることを自分もいつかやりたい！と思っていた。だから今年、私がたてたあらすじはこうです

まず、師匠になって弟子ができて、後輩にスキーを教えてあげて、国際とルスツでインストラクターをして、チームの合宿でメンタルを強くして急斜が滑れるようになって、大晦日はルスツに泊まって年を越して、ドヤ顔でちびっこにスキーを教えて、個人戦選考会は勝ち抜いて団体メンバーになって、チームの2月の怒涛の練習をこなして、藻岩では毎日団体練習をして貧しいご飯とスキー漬けの日々を送って、滑りは最終的に人並みに滑れて人並みの点数をとれるくらいになって岩岳では頑張っただけでスーシーをとって胴上げされるー！！

ただの自己満足ですね、でもこの憧れが頭にはずっとあって…

今年は最後の部分以外は叶えることができたので、楽しかったし、悔やむことはあるけれど、やりきったといえると思う。

去年は確か、練習が辛くて楽しくなくて、だから来年は楽しくスキーをするという目標を立てたと思うのですが、それが少しはできたかなと思います。

ルスツ練の公式練後、みんなでダイナミックを滑ってビデオをとりあったとき、

今まで怖くて滑れなかったダイナミックを初めて滑って怖かったけど意外と滑れて、ああやっと人並みに滑れるようになったと思って嬉しかったり、いろんな場面を思い出すことができるけど、去年より楽しかった思い出が増えた気がします。

でもやっぱり、執行部であった立場を考えると、女子執行部という女子を引っ張っていかないといけない立場でやっぱり自分のことしか考えられていなかったなと思って、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

本当にみんなやる気があって、私が引っ張られた感しかない。本当に感謝しています。ありがとう。

執行部の同期も、楽しくて私は大好きです。ブログにも書いたけど、ミーティング楽しかったなあ、。もうあの工学部の2階で日付が変わるまで全員で話すことはないと思うと、去年の1年間は今しかできない経験ができたなと思います。

本当にたくさん支えてくれて、一緒に考えてくれて、嬉しかった。ありがとう！

時間が経ち過ぎていて、記憶が美化されています。悪い記憶がきえて楽しかった記憶しか残っていません笑

でもわざわざ辛い気持ちを思い出してここに書く必要もないと思うから、今年は楽しかったなというシニョールで終わりにしようと思います。

荒井秀臣

もう SPUR を書く季節ですか。時間が経つのが次第に早くなってきている気がします。今年で 22、気がついたら成人しているもので、大学での3年間はあっという間に過ぎていきました。あと1年で卒業、院に行ったとしても+2年。学生として過ごせる時間があとわずかであることに驚き、3年後自分が何をしているか全く見当のつかないまま、研究室でポーツと過ごしている4年の春です。

お疲れ様です。おみです。

このあだ名もエレ内ですっかり定着して、僕は嬉しいです。思えば3年前、入部早々にこの名で呼ばれるようになり、それまであだ名なんて付けられたこともなかった僕からは新鮮で、少し気恥ずかしかったのを覚えています。ですが、このあだ名のおかげで僕を覚えてくれて、部に馴染むことが出来たきっかけになったのかなと思います。何はともあれ、三代目のおみくんには感謝です。臣一族の英雄だと思います。

なんか SPUR っぽくないですね。まあでも、てきと一な僕らしくていいのかなって思うので、このまま好き勝手に書いていこうかなって思います。どうしてエレガントスキー部に入りましたか？よく聞かれる質問だと思います。大それたものではなくても、皆なにかしらの理由があって入部したのだと思います。僕は小さいときからスキーは怖くて嫌いで、入学時もどちらかというスキーには苦手意識がありました。ですがこのままじゃだめだ、大学生活でどうにか苦手なスキーを克服してやろうと思って、好

きでもないスキー部に入部しました。苦手を得意に！某有名学習教材の宣伝みたいですね笑。苦手を得意に！この考えは僕の中でかなり大切にしている、生きてい中で色々なことに当てはまると思います。スキーに限って言えば、大回りが苦手だとかコブが苦手だとかですね。自分が苦手意識を持っていますから、直すのはそう簡単なことではありません。もしかしたら結果的に直らないかもしれません。それでも僕は全然良いと思います。自分が苦手なことにちゃんと向き合っ、真剣に取り組んだ結果なのですから。そう言った姿勢が人として成長させてくれるのだと思っています。僕はこの考えから分かる通り、結果よりもその過程を大事にしたい人間です。それは社会に出たら通用しない甘い考えかもしれません。ですが、努力をした人はそれ相応に報われて欲しいと思っています。今シーズン滅茶苦茶スキーに行っただ、結果が出なかった人もいます。努力は積み重ねです。確実にその努力は力になっています。1つ1つは微少なものかもしれませんが、集まれば大きな力になります。塵も積もればなんとやっつてやっつですね。結果として目に見えるようになるには時間がかかるかもしれませんが、次のシーズンも続ければきつと報われると思います。諦めずに努力し続けることが大事だと思います。

この1年間、僕は技術部っていう各代の理論派が就くような役職をやらせてもらいました。とは言っても、僕はスキーを理論立てて考えるのは得意ではなくて、スキーが上手くなるためには気持ち（精神）が大事だと思っています。精神論ってやっつですね笑。上手くなりたいという気持ち、スキーが楽しいという気持ち、この2つをしっかりと持っていれば自ずとスキー場に足を運んで練習するようになると思います。上手くなりたいと思ひ続ければ、スキーは上達していくものです。

これらがこの3年間エレで活動してきて僕が考えてきたことになります。今シーズン限りに当てはまることではないですが、3年経ってようやく考えを言葉に纏めることが出来るようになったと思います。後輩たち、そしてこれからの後輩たちに伝えたいことは、エレの活動を通して色々考えて人として成長して欲しいということです。折角、大学4年間をエレに費やすのですからスキーだけに留まらず、他の様々なところも伸ばしてくれればなと思います。

最後に今シーズンを振り返ると、また思っ結果がでなかったシーズンとなりました。岩岳はあと一歩ただただに本当に悔しかったです。次は4年生ですが、来年こそは王座奪還のために少しでも力になればと思います。また、僕は3年生として後輩たちにあまりスキーを教えることが出来なかった気がします。等々最高学年になるので、次の1年間は自分のことだけではなく、後輩の育成に力を入れていきたいと思っています。

来シーズンの目標

- ・岩岳総合・団体優勝
- ・後輩の育成
- ・岩岳スーシー

以上。

安藤廉平

大学生生活もあっという間で早くも4年生となりました。大学院含め6年間のうち半分終わった感じですね。大学前半の3年間、思い返せばバイトかスキーしかしていませんでした。そんなこといるから9時9時に配属されてしまうのでしょうか、はい。

今シーズンを振り返ると、1, 2年の時と何ら変わらない1年間でした。オフシーズンはNチでトレを積み、モチベを上げてシーズン初期に色々考えて滑り、メイン、チーム合宿でめちゃくちゃにやられ、体力的、精神的にしんどい中選考会を迎え、(今年は誕生日でなかったのが不幸中の幸いでしたが)、お悔やみ申され、藻岩に閉じ込められ、岩岳に行き、終わったと思いきや朝里があり、研究室が始まるまでだらっと滑って終了する。過去2年間と違うことといえば、弟子を持ったことと何故か北海道予選に通過してしまったところですかね。弟子は僕と違って選考会は結果を残せていてよかったです。岩岳と朝里はまあ来年頑張るということで。(笑) 弟子のおかげで選考会後は気落ちすることなく過ごせたと思います。次に道大会ですが小樽予選の定員割れもあってお情けで出させていただけました。1年のころの最終目標であった道大会出場をこんな形で果たしてしまったのはうれしい反面煮え切らない思いもありましたが、何はともあれ目標達成できてよかったです。結果はお察しな感じでしたが雰囲気だけでも楽しんでよかったです。ちなみに樽予のときビブ番の前が今年優勝した武田竜選手でした。おかげで樽予は+1点ぐらい高かったと思います。ありがとうございます、竜さん。

大事なことを忘れていました。執行部をやっていたことですね。終わって1か月なもので、すっかり忘れていました。最初のころのMは毎回遅刻していました。りょーたろー、けんたろー、特にごめんなさい。他の人たちもごめんなさい。反省はしています。執行部としては大きな役職がなかったのであまり話に参加できず、あほなことばっかやっていました。なので、僕は口が裂けても執行部が大変だったとは言えません。はい。

また、学連のほうも役員となり、更に副会長にまでなっていました。せな、ふざけてばっかだまじめに話してなくてごめんなさい。なんかデジャブを感じますね、何故でしょうか。(大いに反省しています、大変申し訳ございませんでした。) そんな僕も最後の大仕事朝里大会の運営を終え一足遅く自由の身となりました。学連の皆さん、ポンコツな僕を支えてくださりありがとうございます。

運営面ではほとんど何もしていませんでした。今の執行部にはそうならないよう気を付けてほしいものです。

最後に去年の目標を確認してみると、

- 1) なるきとりょーたろーに勝つ
- 2) 2年に負けない

でした。何一つ達成できていませんでした。いや、きついね。1)に関しては朝里大会でりょたろとはあと5点。まあ頑張ったほうではないでしょうか。なるきとはかなり差がついていてつらみ。2)に関しても2年の団子の中にあれ、3年?みたいな状態ですね。いや、今の3年生、強いね。

ぱっと思いつけることはこのくらいですかね。来シーズンからほとんどスキーができなくなると思うと、なんだか不思議な感じがします。たま〜に公式練の裏で滑っていてもなんだあいつ、とか、公式練できるんちゃうん?とか思わないでください。はい。死んだ顔して滑っていたら色々察してください。

大友雄登

まずは謝罪から。「去年の SPUR 何書いたんやんやったかな」と思い、Safari を開いて確認したところ、「2018/2019 シーズンは岩岳何位などの目標は立てずに技術的目標だけ立てます」って書いてましたが、シーズンは入る前にめっちゃめっちゃ数字の目標立てました、すいません。

今シーズン振り返ります。

2 年目のシーズンまでと大きく変わったことはこんな自分に弟子ができたことです。2 人とも頑固な癖に苦労していたけど、凄い成長してくれてこちらとしてはホッとしています。来シーズンは更に成長してエレの大きな戦力になってくれたら嬉しいな。

自分の 2 年目は悔しすぎる結果だったこともあり、シーズンオフからどうしたら上手くなれるか考えまくりました。そのおかげで良いイメージでシーズンを始められたのが良かったですね。このままいい感じで札予や選考会と進んでいくことを確信していました。

ただ、世の中そう甘くない。

合同合宿で“大回り小回り共に滑りを全否定問題”が発生しました。しかし、そのまま迷走するのではなく、何か今の滑りにプラスして使えそうな要素だけを吸収することにしました。これでこの問題は解決。

ただ、世の中そう甘くはない。

年末に足首を捻挫してしまいました。そこから札予練まで休養。札予練で大回りは滑れましたが小回りは捻挫した部分が痛すぎ。ただ、強行出場することにしました。

さらに試練が。

その夜から体調が悪くなりました。敢え無く札予出場を断念し、道大会出場は叶いませんでした。

数日後、足首と体調が戻ってスキーを再開。ただ、選考会までの日数はかなり限られていました。焦りはあったが、調子のある程度戻せたと思います。

まだまだ試練は終わらない。

選考会の当日、ボコボコパウダーバーンに怖がり、諦めかけていました。ただ、最後の選考会なので、とにかく楽しむことにしました。リラックスして滑れ、目標の順位ではなかったものの選考会を通過することが出来ました。

そこからは大会まで団体練の記憶しかありません。

岩岳の個人戦は、予選のクソ悪い結果っていうのがどうしても忘れられません。本選以降は前を滑るマサシのおかげで良い点が出ました。ありがとう。

朝里はあんま記憶なし。

長かった今年度のスキーシーズン。色々な人のおかげで色々成長出来ました、ありがとうございました。

高野克成

エレガントスキー部での 3 度目の冬を振り返る。

私のスキーシーズンは2年目のシーズンの敗北から始まっていた。朝里大会での予選落ちが自分の実力不足を確かに証明していた。1年目のときには勝っていた同期や、後輩に負けている自分が情けなかった。努力が圧倒的に足らなかったし、結果を見ても悔し涙を流せない自分に腹が立った。

今年は納得のいく努力と満足できる結果を求めている。

結果とは何だろうか。私は高校生ときにクイズ研究会に所属していたが、クイズの世界において、「回答権なき者は沈黙せよ。」という言葉がある。自分がボタンを押せば正解できたなどという言い訳は無用ということだ。スキーで言う回答権は、大会への出場だととらえている。点数以前に去年滑れなかった場所で滑ることを結果として頑張ろうと決めた。

これに従えば、自分は道大会に出場できた。大会のスコアはどうあれ、全日本選手の滑りを間近で見たり同じバーンで滑れたりしたわけで、確かに結果をつかんだと言える。一方で岩岳に関しては一切の結果を得られなかった。補欠に結果などないのである。

ここで結果に至るまでの過程、努力を振り返る。

自ら選んで建築に入ったので、「研究室ガー」のような言い訳をしなくなかった。とはいえ、冬タームに入るとやはり設計の課題がきつくなかった。が、前期の内からブラックに耐えてきた自分にとって、数日の徹夜は我慢できたし、昨シーズンと同じ言い訳をしないようスキーに通った。当時の2年生の圧倒的滑走日数には遠く及ばなかったが、弟子である1年生に示しが付く程度には通った。選考会では合計点数が15位の17位だった。研究室等で忙しい選手が多く、17位まで補欠が回ってきた。岩岳出場という結果は得られなかったが、団体練の裏で努力できる機会を得られたのが有難かった。

教わる時間の確保という点で、団体裏の個人戦選手との練習が自分にとってチーム練のように有難い存在であった。岩岳出場という結果を得られていない身分であれだけの練習時間をいただけたことに感謝しかない。

この1年間を通して、沢山のコーチと関わるメイン合宿や、滑りを見てくださるOBさんの存在、そして何より滑りの話ができる同期の存在の有難さを誰よりも実感したと自負している。このことへの恩返しは、最後の朝里大会の結果で示すことができた。

4年目のシーズンは師匠・選手として活動する予定はないが、岩岳大会の一部の日程に参加することを目標としたい。写真係として、選手達の努力の結果を写真に収めることが、自分に関わってくれた同期や後輩への恩返しだと勝手に思っている今日この頃である。

武内敦貴

第1章 函館～札幌 高速車八尋号

函館にいったらゆっくりスキーをしようと思っていた今シーズン、11月下旬国際スキー場にいた。結局そうなるのかと思いつつシーズンインを迎えた。ほぼ毎週末日の出よりも先に1日は始まり朝飯を車の中で下に落とさないよう気を配りながら食べる。なんで飯の時間なんぞに神経を使わなければいけないのだろう。思えばシーズン中、休みの日は家でゆっくり飯を食うことはなかった。そんな些細なことでも敏感に捉えてしまう。雪面でもそのくらい神経を貼り巡らせない。と言ってもスキーをするのは週に2回多くて祝日を含めた3回が限度だ。全体的な練習量が減り、教わる機会も少ないためモチベーシ

ヨンは競技と言うよりは自分が気持ちいいと思える滑りを完成させることだった。

第2章 札幌 下積み生活

冬休みに突入し本格的にスキーのシーズンを迎え、我々は家を出る覚悟をした。もうこんなに家を空けるのは就職活動くらいだと心の中でどこか探検にでも出るような気持ちで扉を開き荷物を担いだ。車の後ろの窓が隠れるほどの荷物で溢れかえった車は前だけを見ることしかできない。もう後ろには戻れないと思いながら函館を去り5時間の間地面に足をつけることはなかった。札幌に着いたのは意外にも足音が教えてくれた。キシキシと雪が靴で潰される音、まだ函館では聞いてなかったと思い改めて今自分がいるのは札幌なのだと認識した。ただこの滞在期間、学生なので宿を取るお金もなく気づけば中村君の家に荷物を置いていた。快く彼は僕を迎え入れてくれたがどうやらお金を取る気はないらしい。僕は思った、これではまるで下積み生活ではないかと、、、、

第3章 集え白馬の王子たち

長野県のとあるスキー場、ウェアを身にまとい白い雪に映えるその姿は王子そのものだ。表情はみな落ち着いているものの心は熱く、周りの雪も溶け始めている。溶ける量は日を重ねるごとに増え、戦いが終わる頃には雪は溶けきっていた。雪というエネルギーを我々がすべて使い切ったあとこのスキー場は再び長い眠りにつき、そしてまた1年後、、

第4章 振り返るな、歩き続けろ

この部活もまた1つ歳を取り、こうして今 spur を書いている。もう3回目だ。でもこれで終わりだと思おうと、昔のことを思い出したくなる。某アニメのあの台詞が心の中で何回も復唱される。これからの自分を決めるのは今までの自分ではなく、“いま”の自分だと。こうして歩き出したがまだ世界は白く染められていない。ただその世界に足を踏み入れないかもしれない。ただ自分の足で刻みつける spur の感覚は忘れることはないだろう。

あとがき

最後のシュプールなのですこし手間をかけました。思えば自分の気持ちは書いていない気がしますが、お許しください。それでは皆様のスキーライフが爽りあるように、、

田中成奈

3年目の岩岳は59点差で男子総合2位に終わりました。

昨年、前部長が岩岳での無念と僕らの代の目標についての感謝をシュプールで書いていました。実際優勝を目指してこの1年頑張ってきましたが、僕は自分の技術さえ向上させられたらいいやというタイプの人間だったので、当時は、他人事のように前部長あついな〜と思ったのを覚えています。

しかし、今は今年の結果を本当に悔しく思っています。それは仲間の存在が大きいと思います。僕は今シーズン、日程的に団体に出られず、個人に絞って戦わせていただきました。去年は団体も出場して自分のことで精一杯だったので分かりませんでした。岩岳は選手だけで戦っているのではないと気づかされました。藻岩時期、すすんでビデオを撮ってくれる人、選手に負担がかからないように率先して仕事をしてくれる同期、滑ればコメントをくれる先輩、団体サポートをしてくれる部員やOB・OGさんたち、そして僕の練習にいつも付き合ってくれた克成。たくさんの支えがあったから頑張れたし、選

手じゃない人たちのためにも絶対岩岳で結果を残して喜んでもらいたいと思いました。こんなふうに見えるのは本気で部で一丸となって戦っているエレガントスキー部にいたからだと思います。3年目の最後の最後で本当にこの部活に入ってよかったなと実感しました。皆さんもそう思えるように1年間全力で取り組んでみてください。こんな経験ができるのは今だけだと思います。

また今年のはじめて師匠をさせていただきました。まず、師匠に選んでくれてありがとう（理由はどうであれ笑）。3年の師匠だからと弟子を不安にさせたくなかったので公式練は準備の段階から結構頑張りました。シーズン中の感想は、浅野は機嫌に左右されやすく、竜之介は横ずらしが苦手で、遠藤は常ににやけているって感じでした。みんな一生懸命練習に取り組んでくれて公式練の復習も頑張ってくれていたの、結果は必ずついてくると思います。来年の地区予選や岩岳を楽しみにしています。

最後になりましたが、昨年度も多くのご指導を頂いたコーチの方々や OB・OG さん、学連でご支援ご協力を頂いた企業様、そして一緒に活動してきた部員の皆様に深く御礼申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

谷岡拓実

早いもので気がつけばもう1年たって、シュプールを書く時期になってしまいました。今年は執行部として活動した1年でした。部長とか他の人はもっと大変だったと思うけど、毎回のミーティングや行事ごとの車だしなどいろいろ大変なこともたくさんありました。2月の忙しい時期に藻岩にあまり行けなかったり、その他いろいろ迷惑をかけたり、足を引っ張ってしまったこともあったと思います。そのなかで、自分どれくらい貢献できたかは分からないけど、同期のおかげでやってこれたとおもいます。本当に感謝してます。スキーに関しては、相変わらず学科も忙しく、雪不足のせいでスキー場もオープンせず、シーズン初期は思うようにスキーに行けないことも多かったです。さらに研究室が始まった2月からは平日の藻岩の練習にほとんど行けませんでした。その中で去年よりもいろいろ考えてスキーすることは出来たと思います。今シーズンもいろいろなコーチの方などに教えていただく機会に恵まれ、少しずつではあったけど取り入れることは出来たかなと思います。ただ、札予、選考会、朝里大会と大会では思った通りの滑りが出来ず、成績も全然ダメだったのは残念です。

そして今年は弟子を持ちました。シーズン前から教えることが出来るか不安だったし、ちゃんと教えられたかは分からないけど、分かりにくい説明でも我慢してついてきてくれた弟子の二人には感謝してます。二人ともけがして、スキーできない時期もあったけどうまくなった姿を見てとても嬉しかったです。もっとうまくしてあげられなくてごめんね。来年はもっといい師匠を見つけてもっとうまくなってください。

最後にこんな僕にもスキーを教えてくれたコーチの方々、先輩方、一緒にスキーをしてくれてアドバイスをくれた同期、たいしたアドバイスもできない僕と一緒に滑ってくれた後輩たち、本当にありがとうございました。

長瀬智明

昨シーズンの振り返りを、トレ部としての目線、選手としての目線、執行部(3年目)としての目線の3つから考えてみる。

まず、トレ部としては見通しが甘かったと感じた。自分がいれば、オフシーズンの部長としてエレの活動を引っ張って行く立場であったが、全体をまとめ上げることが出来なかった。自分は同期からの推薦でトレ部長となったが、それについてはうれしい反面、責任感も大きく感じた。今までこういった、人の前に立つことをしてこなかった自分にはなかなか重い役職であった。また、オフシーズンは自分が考えたトレーニングによって部員の力を伸ばしていかなければならない。正直、不安しかなかった。しかし、同期や先輩のアドバイスのおかげでなんとかやりきれた。後輩が自分のメニューを頑張ってくれてくれる姿も支えになった。みんな思うところがあったと思うが、やりきってくれたことがうれしかった。昨年トレ部をやっていると思ったのが、自分の知識不足と、そもそもの情報不足だ。知識不足は改善出来るかもしれないが、情報不足についてはすぐに改善できる課題ではない。この情報不足というのは、つい近年までエレがトレへの意識が低かったことによると思う。ただ、オフトレへのモチベーションは人それぞれである。それを全員に強要するのは自分は違うと思う。ただ、オフトレを充実させたいというひとのために情報は引き継いでいくべきだと感じた。うれしいことに、新執行部のトレ部は歴代の中で、特にオフトレへの意識が高いと感じた。自分は今年度コーチから得た知識をできる限り引き継いだので、活用して欲しい。

次に選手としては、部にほぼ貢献できなかった。3年生としては情けない話だが、部内選考会でも数多くの後輩に負けてしまった。明らかかな力不足であった。原因としてはやはり、スキーへの取り組みの差であった。他の人ほどスキーに向き合うことが出来ていなかった。これは自分の弱さが招いた結果であり、自分の中での限界でもあったと感じた。そう感じてからは自分の出来るところで部を支えていったつもりである。ただ、それは誰でも出来ることで、もどかしさも感じた。結局の所、選手としてはほぼなにも出来なかった。

最後に執行部としては、部の運営を部長と副部長に任せきりになってしまったことを申し訳なく思う。部について考えているつもりではあったが、それはやはり“つもり”で、苦勞をかけてしまった。どんな行事でも、2人が細かいところまで考えて、頑張ってくれていた。本当に感謝しかない。ほかの同期については自分が悩んでいるときに力になってくれて、やさしく支えてくれた。これはみんなが思っているより、自分のなかではかなり大きな力になった。

この1年間は長いようで、また短くもある1年であった。この1年で得た物を今後の生活で活かし、後輩に伝えられる部分は伝えていきたいと思う。自分は4年生となり、現役として活動はしないが、力になれるところは力になりたいと思う。

<三年目>

第53代会長 中島慧

第53代部長となりました、中島です。1年間よろしくお願ひします。

部長にはなりましたが、未だに自分が77人の先頭に立っている感覚がありません。とにかく今まで見てきたリーダーはどんな振る舞いをしていたかを思い出し、授業で受けている経営学の授業なんかも参考にしながら、手探りで進めています。

僕は組織を船で考えようと思っています（高校野球部時代の受け売りです）。

「エレガントスキー部」という船は、目標である「岩岳優勝」という大陸に向かって、大洋の上を航行しています。でも、それは最終地点ではない。船員がこの船に乗り込んだ目的は「スキーの上達」、つまり全員の到達したい最終地点は「スキー上達」の大陸だと、第53代執行部は結論づけました。

船を進めていく上で役割が必要になります。

船は船でも近代のエンジンで動く船ではちょっとわかりにくいので、大航海時代くらいの帆船をイメージしてもらえればいいと思います。風を読んで帆を貼り、時にはオールで漕がなきゃいけないような、そんな船です。言わずもがな、部長は船長です。船の航路やその他事項の最終決定責任者となります。副部長は一等航海士。船長の補佐的役割をもち、船の操縦、船内の見張りなど、多岐にわたる仕事があります。技術部・トレ部は、二等航海士。航海計画を立て、どうすれば目的地にたどり着くのかを考えます。技術部が帆の張り方やオールの漕ぎ方を考える指針を作り、トレ部が体を作る指針を作ります。渉外部・広報部は通信士でしょうか。周りの船（他の部など）や陸地（コーチなど）と連絡をとりあって協力したり、衝突しないようにします。

特別に役職を持っている船員はこれくらいですが、ほかの船員にも当然役割があります。医療、会計、交通、ビデオ、サ館、登山、学連、庶務、そして4年生、2年生、1年生。全員が、船を進める上で欠かせない役割を持っています。それぞれが何をすれば目的地に近づくのか、一人一人考えていくことが必要だと思います。僕も部長として何をしたら良いのか、常に考えながら活動していきます。

さて、自分のスキーの話をしてします。18-19シーズンは、17-18シーズンとは違った滑りを目指しました。でも、目指した方向が違ったみたいです。結局この文章を書いているいまは、17-18シーズンに目指した方向の方がよかったんだと思っています。しかし、18-19シーズンが全く意味のないものであった訳ではありません。いろんな理論を試してみて、自分なりに考えて、いまの理論があります。失敗した方が次のシーズンに生かすことができるので、その意味ではよかったと思います。

岩岳も団体まで出させてもらいましたが、個人戦ではいい成績にはなりませんでした。サポートしてくださった方々には申し訳なく思います。でも、これが実力なんだ、と受け止め、来シーズンに生かしていきます。

19-20 シーズンは、執行部をやりながら、公務員試験の勉強をし、岩岳に行く、というシーズンになります。充実したシーズンが送れそうです笑。高校時代に引き続いてこういう両立の機会を得ることができて、恵まれているなと思います。決めたからには一生懸命やります。

大学を卒業してもなんらかの形でスキーは続けたいです。大学生活4年間で見たらもう3年目なので、確かに僕の先輩方が3年目だったときのような結果を出したいし、それを超えたい気持ちもありますが、卒業してもスキーを続けることを考えるとまだまだ3年目という見方になります。あんまり焦らずに、長い目で見て上達していきたいと考えています。

以上

第53代副会長 加藤慧

・昨シーズンの振り返り

エレ2年目とした迎えた2018/2019シーズンは1年目同様楽しいこと、悔しいことの連続であったと思う。

まずオフシーズンについては、相変わらずみんなの体力についていくのが精一杯であったが、たくさん励まして、冗談を言い合ったりできる同期のみんなの存在もあって、1年目よりも楽しく過ごしていくことができた。

次に本題のオンシーズンについて書いていこうと思う。シーズン初期の12月ごろはただひたすら選考会を通ることだけを考えて滑っていた。授業も忙しくなかったので週6日はスキーに行っていたように思える。そのシーズン初期の成果を選考会前に試すことができる札幌予選では得意の大回りで良い点数を出すことができ、去年掲げた目標の1つである道大会に出場することができた。この良い流れで選考会に挑み、目標である岩岳に選手として出場するぞ、と思っていたが、そう上手くいかないのがスキーである。

選考会が終わってからのシーズン中期は正直スキーのモチベーションを保つのが難しかった。その中でも道大会では周りのレベルが高い中で、さらに天候にも恵まれて、純粹にスキーを楽しむことができた。道大会が終わってからの藻岩時期は本当に苦しい日々の連続であった。そんな藻岩時期ではあったがAチ落ちのみんなと切磋琢磨しながら頑張れたと思う。岩岳大会期間中は通称303のメンバーと少しはしゃぎすぎたが、とても楽しむことができた。

岩岳大会後のシーズン後期は朝里大会をはじめとしてすごく充実した日々を過ごすことができた。朝里大会の前は、正直自分の実力がどれほどのもので、決勝に進むことができるかも不安であった。その不安はいい意味で裏切られ、来シーズン以降に繋げていける結果を残せたのではないかと思う。春練については1年生とたくさん滑ることができ、先輩としての意識を持つこともできた。

・今シーズンの目標

道大会決勝進出 団体Aチ 朝里大会25位以内

今シーズンの目標については上にあげた3つにしたいと思う。特に岩岳大会の団体Aチについては必ず達成したいと思う。

また今シーズンは執行部さらに副部長として迎えることになるので、部員のみんなの手本になれるようにオフシーズンからしっかりとトレーニングを積んでいき、オンシーズンに入ってから部としての目標である岩岳大会男女総合優勝を達成できるように活動していきたいと思う。

第53代副会長 柴田信彦

2018 - 2019 シーズン(以後昨シーズン)を終えて私が残したシュプールを振り返る。

昨シーズンは結果はともあれシーズンを通してとても充実したシーズンであった。初期に行われたキロロ検定で1級に合格。公式練においても諸我師匠のおかげで格段と上達した。兄弟弟子の大野雅史、伊藤結衣のおかげでなんとかついていこうと頑張れた。二人には何度も雪上で伝えたが、あなた達のおかげで厳しくも充実し、楽しい公式練をすることができた。オーンズにもほぼ毎日行った。地獄のチーム合宿も乗り越えた。1年時の私を今なら叱れる。今年はともかくハードワークをテーマにシーズンを過ごした。マクドのオープンをし、授業を受け、オーンズに行く。今振り返ると自分でもおもしろいと思う。態度は大きいものの体の強さは並。そのような体力でそのようなスケジュールをこなせるはずもなく、クリスマスイブの大丸のエレベーターホールでぶっ倒れた(笑) 本当に、パタリと。今シーズンはもう少しゆとりのある暮らしをしたいがエレに入ったからにはこれが宿命。来シーズンは生活する体力をつけることとする。

そして昨シーズンのシュプールの中で忘れられない日はやはり選考会の日。

もう思い出したくないあの感情。帰りの車中は感情を押し殺すのと、安全運転を心がけた。スポーツをやってきて初めて努力が報われない経験をした。今までやってきた何が悪かったんや。そんなことばかり考えていた。冷静な考えを持つまでに時間がかかった。もう一つ。鈴木良育に対してのある種の嫉妬心もあった。彼は昨シーズンから私と同じチームに属し、練習や合宿を共にしてきた。公私ともに良好な関係で近い存在であった分、余計に彼の存在が遠く感じた。練習当時からコーチが出す要求に対し、彼の方が圧倒的に上手にやってみせる。その時から焦りと不安だらけだった。しかし、彼と話しているとそれは彼の持つ運動能力だけでなく、努力の賜物であることが分かった。それ以来、彼の滑る姿に対する羨望の眼差しとともに、彼を研究すれば私にもできることがあるのではないかと思うようになった。幸い、彼は私と同じチームにいる。研究し、技術を盗むことはできる。彼にはモルモットになってもらう(笑)

以上ざっと簡単に昨シーズンのシュプールを書いてみた。日々の忙しさに追われ、自分がエレでどのような活動をしてきたかをゆっくりと考える機会がなかったので良い機会だった。気付けば私ももう執行部。そして副部長。私は法学部で院には進まないで4年生の冬で北海道を追い出される。残された時間無駄にせず、なぜ自分がエレに入ったのか、初心を忘れずに今年目標を達成する。以下来シーズンの目標を掲げてこのシュプールを締めくくる。

地区予選突破道大会出場 岩岳大会出場 テクニカルプライズテスト合格

浅野晃平

2年目シーズンも1年目シーズンと同様に不甲斐ない成績で終わってしまい、とても悔しくて悔しくて、何度振り返っても悔しくて、やるせない気持ちでいっぱいです。2年目シーズンは1年目シーズンに感じた相当な悔しさを晴らそうと、毎日個人戦選考会のこと、1/18(金)という文字が頭から離れず、自分なりにオフから積極的にからだを動かしたつもりでしたが、冬に結果として現れませんでした。納得のいく滑りが少しずつできるようになっていけばエレでの冬の生活も楽しくなれるはずだと思うんですけど、自分の理想が高いのかいつも動画を見ては落ち込み、みんなの動画を見ればさらに落ち込んで、途方に暮れちゃうんです。選考会が終わって、2月のモイワ生活では自分がどうしてスキーをしているのか分からないときがあって、相当しんどくてエレが嫌いになり、岩岳が終わるまで正直エレの生活が1ミリでも楽しいって思うことはできませんでした。その後帰省して家族に会い、高校の部活の友人たちに会ったら久しぶりに楽しい気持ちになれて、このころに戻れたらなああって、陸上またやりたいなああって、そんな気持ちに浸っていました。北海道に戻って迎えた朝里大会は、2年目シーズンの僕にとっての最初で最後の大会でした。ようやく大会に出場できるのに、また自信を無くしてしまうんじゃないかという不安でいっぱい。「決勝進出」という目標を師弟LINEで立てていましたが、入部以来、掲げた目標に到達したことがなくて、実際に今回もまた自分の目標は乗り越えられない高さ壁なんじゃないかって思っていました。結果は悔しさが大きく残るものでした。でもエレに入部して初めて目標に到達することができて、長く暗い山道にほのかな光を見つけたようなそんな気持ちです。

入部してこの2年間、僕の成績はずっと下位のままで悔しくて苦しいことばかりを経験してきました。でもこんな程度で僕は潰れません。陸上時代にもっともっとつらい経験をしてきた12年間の過去があるから。自分は人よりスキーセンスがないです。でも、スキーセンスがないからこそ、3年目になった自分にはやるべきことがあるって思います。努力のないところに上達は決して生まれないし、精いっぱいやった延長線上に目標が見えてくるときがある。そう信じて最後までひたむきにスキーと向き合っていくこと、それを背中を示していくことが自分に与えられた使命なのかなって思います。

いろんな想いはありますが、3年目シーズンの一番の目標は弟子の目標をかなえさせてあげることです。春練では7人もの2年生と一緒に滑る機会がありました。師匠経験の場を与えてくれた2年生には感謝しています。「師匠」というのは難しい。春練でひしひしと感じました。でも師匠をする上で大切にしなければならないことも春練で学ぶことができました。そのうちの一つが弟子を最後まで責任をもって支えてあげることです。‘僕の師匠’のような師匠にできる限り近づくことを目指して、弟子たちの目標達成のために全力を注いでいきたいと思います。

各先輩方、後輩たち、スキー用品店の方、コーチ、兄弟弟子、友人、家族、たくさんの方々に今シーズンもお世話になりました。ありがとうございました。憧れの師匠へ。短い言葉では言い表せれないですが、成奈さんのこと心から尊敬しています。個人戦選考会の結果発表の直後、泣いてる自分に「今日のお前の悔しさを晴らすために朝里までに絶対に強くさせてみんなに見せつけてやるけん」って言うてくださって、あの時期すごくつらかったんですけど、その言葉が自分の奥底で消えない励みとなりました。あれだけわがままをして迷惑しかかけていなかったのに、期待に応えられるような結果を出すこ

とができなかったのに、最後までずっとずっと支えてくださって感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

そして、最後に。僕にとってこれからの数か月はエレの一員として過ごす最後の日々になると思います。岩岳の表彰台の一番高いところでトレ部長としての最後の任務を担ってエレでの生活を終われるように、エレの部員として過ごしている今の一瞬一瞬を大切にして、優勝に貢献できたら幸せです。

石川友貴

今シーズンは特に何も部に貢献できなかったことが1番悔しいことである。エレガントスキー部の部員として、岩岳優勝するためにはどうすればよいのか、と考えたときに、1番貢献することができるのは、自分が上手くなって選手として岩岳大会に出場し、ポイントを稼いでくることである。岩岳大会に出場すらできないのは、エレガントスキー部の部員として自覚が足りていない。師匠をつけてもらって、いろんな講習なども参加させていただいているのに、その成果を出せていないというのは全て自分の頑張りが足りていないと思う。

オフシーズンは1年前よりもトレに対するモチベーションは高かったと思う。去年の目標が岩岳に出る、ということで、それをオフシーズンからずっと考えていた。オフから回りに差をつけたい、という気持ちがあったが、足りていなかったと思う。周りをもっと努力している人も多い。その人を押しつけて自分が出る、という覚悟をオフシーズンにつけていかなければならない。

シーズンは、師匠に恵まれ、講習なども多く参加できたが、それらを生かすことができなかったと思う。他の自分よりもうまい人を自分は何が違うのか、自分に足りていないものは何か、ということを考えずにただひたすらに滑っていたと思う。自分の場合は運動ができるわけでもなく、飲み込みが早いわけでもないのだから、多くの時間をかけて練習することは大事だと思う。ただ、考えを整理して、限られた時間の中で努力の方向性を整理する時間をとることも大事なのかな、と改めて感じた。12月とかは割とスキー場に行くことで満足してしまっていたのかもしれない。

札予は正直自分の実力はこんなものかなとは思っていた。ただ、他の同期が通過して、道予の説明会に参加している姿を見て、悔しかった。スキーを始めて1年間でこんなにも差ができるのかと感じた。こいつらをどうやったらぶち抜けるのか、とかいろいろ考えた。ここから選考会で巻き返してやりたい、と思った。

そこから選考会まではあまり覚えていない。記録ではこれがダメとかいろいろ書いているが、かなり慌てていたと思う。地に足が着かないようなフワフワした感じだったと思う。結果的に選考会は落ちて、今シーズンの目標は終わってしまった。自分的には朝里大会のモチベーションとか無く、来シーズンに向けていろんなことに挑戦していけるからいいか、とか自分に言い聞かせて気持ちが切れないように強がっていた。でも実際には、藻岩で団体やっている同期とかめっちゃかっこよく見えて、かなり悔しくて、自分がこの部でスキーやっている意味って何やろ、って考えることが多かった。藻岩でこいつらを上回ってやろう、って表向きでは思っていたが、内心気持ちがスキーから離れていることが多かった。無理矢理朝一で行ってクローズまでがむしゃらに滑っていた。この時期が一番無駄だったと思う。今考えれば、気持ちつなげて一番成長できた時期だったのかもしれない、と思う。自分の実力不足、実

力ない自分がまぐれで選考会通ったところで結果が出なかっただろうし、部に迷惑なだけである。自分の負けというか、実力不足を認めて、常に上を目指していければよかった。これは選考会落ちた同期も数人そんな感じだったと思う。自分下手やから一、岩岳頑張って、と選手に気を使いつつも、内心自分の負けを認め切れなくて、それが悔しくて、サポートしながらも何でこいつらが出んねん、みたいなこと思ってしまって、でも自分は下手で、うまく滑れなくて、という複雑な気持ちだったと思う。

岩岳大会は反抗的な感じで本当に申し訳なかったと思う。正直自分が出てない大会とか優勝しようが2位になろうがどうでもよかった。同期、先輩が大会で頑張っている姿を見ても、オフシーズンとかこいつらやる気無いやつ多かったやんけ、なに急に本番近づいたら優勝するぞ、とかほざいとんねん、あほらして思うこともあった。個人、新人戦終わって信州大に負けていても、なんでこいつら1年あんまり見んかったくせにポイントももっとってこんの？と思うこともあった。団体終わって、2位確定しても、何か自分には響くものはなかった。悔し涙を流している同期を見ても自分はそういう気持ちになれなかった。優勝できなかった、という気持ちよりは、やっと思んどくさいサポート終わったわ、という気持ちが大きかった。最低な部員である。

でも、終わって考えると、サポートするの面倒だとか、自分がうまくなりた、自分優先だ、と思うならエレに所属する意味なんかないと思った。絶対に藻岩でサポートとかコーチに教われない時間の中に他のチームとか講習に参加しているほうが自分がうまくなるには良いし、岩岳大会に行くための費用と時間を自分のために注げばもっとうまくなると思う。それでも自分がエレの部員であるというのなら、第一に考えることは自分の成長ではなく、部の優勝である。このことはかなり難しいと思う。でも、自分が下手でコーチの講習が受けられないのならそれが受けられるまで自分で成長しろ、ってことだし、サポートが嫌ならサポートしてもらえらいうまくなって、部の優勝に貢献すべきだと思う。チームでやっている以上、実力ある人がそれを生かして、下手な人は出れない代わりにサポートしたり、選手が講習受けるのなら譲るとかそういうことで優勝に貢献すべきなんだと思った。

いろいろ書いたが、自分はサポートするのは嫌だし、滑って部の優勝に貢献したので、来年は絶対に岩岳大会に選手として出場したいと思う。そのためにどうするか、ということを常日頃から考えてトレや行事を執行部の自覚を持ってやっていきたい。サポートも貢献するひとつの手段で、自分の実力が足りなかったらそうするしかない。でも、部の優勝に一番貢献できるのは自分がうまくなって、岩岳大会で活躍することである。

目標：エレガントスキー部の部員である以上、目標の優勝に貢献する。執行部として部で岩岳大会優勝する。そのために自分が活躍する。

伊藤結衣

目標：

個人戦選考会 1 位 札予転ばない&道大会で 85 を出す 岩岳個人戦スーシー 岩岳男女総合・団体優勝

上に来シーズンに絶対に達成したい目標をあげました。なんだか欲張っているようにも見えますが、どれも非現実的な目標ではなく、執行部としても、個人としても来シーズンに掛ける思いはとても強いです。この目標とともに、昨シーズンを振り返りたいと思います。

去年の SPUR を見返すと自分の掲げていた目標で一つ、達成できなかったものがありました。岩岳スーシーです。なんとというか、惜しかったわけでもなく、あっさり普通にスーシーとれませんでした。女子のクラブシード A の枠を使わせていただき、先輩も同期も後輩もたくさん応援して支えていただいたのに、情けないです。自分でも、とれるでしょう。と思っていたのもだめだったのかもしれない。ほんとに点が出なかった！（コブだけ点が出て、下でサポートの穂積ちゃんと号泣しました。）基礎の同期がちゃんとスーシーとっていて、ほんとに悔しかったです。岩岳のジャッジがゴミ過ぎる！と叫びたい気持ちもありますが、まあ岩岳のジャッジがちゃんと点をくれるような圧倒的に上手い滑りができなかった訳で、自分の技量不足です。このままじゃ一緒に練習してくれた同期や師匠にもあわす顔がなくなっちゃいますね、来シーズンこそは絶対にとります。

もう一つ、昨シーズンで印象深いのが団体でした。女子は誰一人として欠けてはだめで、ほとんど団体初心者という状況のなか、初めての団体でトップをやらせていただきました。まゆこさん、みなえさん、未緒、本当にありがとうございました。寒い藻岩で励ましあったこともありますが、ほとんどぶつかり合っていた？笑かかもしれません。しかし、このお三方から学んだことや支えられたことの数々は感謝してもしきれず、バーン上で笑い合ったり、けんかしたりしても、前でめちゃくちゃに滑る私にずっとついてきていただきました。そして OG さんや、テールについてくださった結衣さんなど、たくさんの方々を支えていただいた団体練習でした。本番は目下に人がたくさんいて、一回も滑ったことのないバーンを滑るという、恐怖体験のはずでしたが、思い切り自信を持って滑ることができました。こんなに練習したんだから大丈夫だし、お三方は絶対についてきてくれるなとわかっていたので、緊張よりも、滑り始めたら楽しくなってきたのは本当に不思議でした。自由では滑り終えた時点ではちゃんとラップとれた！めちゃくちゃうれしかったです。私は前を見て滑っていただけで、あのお三方のおかげです、ありがとうございました。次の岩岳は団体 1 位とるぞ。

時系列が前後しますが、今年の札予も転びました、、、。どこまでも詰めが甘い。2 年連続札予転倒です。次こそは転ばず、ちゃんと点を出すぞ。ぎりぎりではなく余裕で札予通過します。そして道大会もびびらず滑りきります。もうびびって滑りに支障がでるようなことは嫌です。スピードや斜面の怖さに打ち勝つシーズンにしたいです。

昨シーズンを振り返ると、やはり一度転倒した恐怖がトラウマで、なかなか思い切った滑りができなかったことが多かった、自分でもほんとに何やってるんだよって感じです。もうそれをウジウジいうの

も、熱心に教えてくださる先輩や同期にも申し訳ない。次は師匠もやるんだし、3年目だしカッコいいスキーのできる先輩になります。

先輩と言えば、やはり師匠のことを触れないわけにはいかないのでしょうか。周りの同期が2年目の師匠は違う人を希望する中、私は1年目と同じ師匠を希望し2年連続で見させていただきました。私のような扱いづらい弟子を2年間ももった師匠はすごいです。1年生のときは恐かった師匠は、私の中で壁がだいぶ消えて、親しみやすい先輩へと変わりました。しかし滑りや、理論やわかりやすさなどスキーにおいては尊敬しかないです。そこだけはずっと変わりませんでした。2年間で学んだことは多く、教えていただいたことを無駄にせぬよう滑りを変えて、私も自分の師匠のような、尊敬される師匠になれるよう努力したいと思います。

さて、次が執行部として臨む最初で最後のシーズンです。女子は団体でも総合でも優勝したい！人数が少なくとも3位までいけたんだから、いけると思います。特に同期の女子はタフで努力家で過酷なシーズンもなんなくこなしてきた強者です。私たちで後輩を引っ張って、団結して、全員で優勝を取りに行きます。よろしくお願いします！

伊藤竜之介

エレガントスキー部に入部してはや2年、もう執行部になってしまい、時の早さを感じる今日この頃です。2年間ですら早く感じてしまうのですから、SPUR提出期限までの1ヶ月なんてほんの一瞬です。明日からトレ合宿だというのに、僕は夜の11時に何をやっているのでしょうか？過去の自分に苛立ちを覚えながらキーボードを叩いております。

今シーズン自分が1番成長を感じたのは車の運転です。自動車学校ではWM教官に、時には「ブレーキブレーキブレーキ!!!」と叫ばれ、時には「オートマに変えるか?」と諭されていた僕が、北海道の雪道を(車の性能に頼りながらも)普通に運転できるようになったのは奇跡だと思っています。しかし、ここまで運転技術が向上したのは、恐怖に耐えながら助手席でアドバイスしてくださった先輩方、運転技術をデイスすることで僕の反骨心を煽り、向上心を駆り立ててくれた同期たち、乗車中どんなにGがかかっても文句一つ言わず、配車メールに返信をくれ続けた後輩たちのおかげだと思っています。この場をお借りして感謝の意を表します。

さて、肝心のスキーに関してですが、今シーズンは本当に苦しいシーズンでした。オフシーズンではインラインで少しは自分なりに成長を感じられていたので、雪上でもその成長が生きると期待していたのですが、思うように行かないことばかりでシーズン中はどんどん気が減入っていきました。スキーには行ってもずっとマイナスの感情を持ったまま滑っていて、今考えると本当に時間を無駄にってしまったと思う日もありました。

今シーズンを終えて1番感じたことは、スキー上達を楽しむ気持ちを持たずに滑っていても全く成長しないということです。今シーズンは、スキーの中で自分ができない動きや欠点が見つかるたびに萎えてしまい、どんどんマイナス思考になって、結局その欠点から逃げてしまうという無限ループでいまし

た。できないことをしっかり受け止め、それでも上手になりたいという気持ちを強く持って、転んでもいいから自分のできない動きをひたすら練習していればもっと違ったかもしれないと今になって思います。

車の運転も、自動車学校時代は本当に嫌いで、教習前は憂鬱でした。しかし、自分で運転するようになり、スキー場に車を出すようになるとできないとは言っていないのでできないことと正面から立ち向かっていました。そこで少しずつできることが増え、上達を楽しむ気持ちが芽生え、結果的に成長につながりました。

上達を楽しむ気持ちというのは、成功体験がなければ持つことができません。最初の成功体験を得るまでは自分を律して壁に立ち向かう精神力が必要です。自分はそういう面で弱い人間ですが、今年度は弟子を持つ立場でもあるので覚悟を持ってシーズンを迎えたいと思います。まあ期限ギリギリまで SPUR という壁から逃げていた自分が言っても説得力ないと思いますが…。

榎本将聖

早いものでもう3年目、執行部の代となってしまいました。この2年間は時間が無限にあるように感じられてその勢いに任せてひたすらスキーの技術を向上させることのみ追い求めていたように思います。周りを見回しても同じように何も考えずにスキーばかりしている人しか居なかったために当たり前だと思ってましたが、今年でスキーに同期全員で取り組めるのは最後になってしまいます。4年目も続けられる人も居るでしょうが、僕は一番続けられない人でしょうね(笑)。オーンズに行ったら青いウェア着た奴らがうじゃうじゃ居る、脳筋しかないこの代が大好きです。

まずはオフについて振り返っていきましょう。去年はたくさんの1年生が入部してくれました。スキーをする仲間が増えるのは嬉しく、またエレが賑やかになりました。災害が多い1年でもありました。オフの行事がトレ合宿のみ…。なんの思い出もありません(笑)。計画的にバイトして晴れてカーオーナーになりました。今年は車のお陰で忙しいながらも一年目と変わらない日数通うことが出来ました(90くらい)。去年朝里で頑張ったこともありずっと憧れであったゆうたろうさんの弟子になることができました。更に兄弟弟子がなかじと笠井という接しやすくスキーの上手いやつらで凄いモチベーションが上がりました。笠井はトレランの魅力に憑りつかれていなくなりましたが、ゆうたろうさんとなかじのお陰で今シーズンの飛躍があったと思っています。本当に二人には感謝しかありません。ありがとうございました。来年もまたこの師弟で滑りましょう!(笠井も入れて)

シーズンについて振り返っていきます。今シーズンは個人的に飛躍の年でした。札予で初めて同期1位を掴み、無理だと思っていた道予に出場出来ました。選考会も9位で通過することが出来て団体にBチとして出場出来ることになりました。道予はそこまで悪くない順位を取れ、個人的には満足しました。決勝は来年の目標にします。岩岳では個人83位。目標は2桁なんて言ってましたが密かにスーシー狙っていたので悔しいです。朝里は26位。岩岳も朝里も同期にやり返され、1位はとることができませんでした。昨シーズンは時間も結構あったので勝負の年でした。技術ももっと飛躍させて上手くな

りたかった。来シーズンはエレ内でそこそこの順位をとって満足するようなことなく、もっと高いところを目指します。

今年もエレガントスキー部は男女の総合、団体共に優勝を逃しました。一年目は力になりきれず、悔しそうな先輩を遠目から眺めているような疎外感や蚊帳の外であるような感情を持ちました。今年は個人戦選手としてまた団体選手として出場したのでそのような感情にはなりませんでしたが、悔しがりきれない自分がいました。僕は今年1年優勝を意識して活動してこれてなかったのだと思います。個人のことばかり考えて、先輩や同期、1年生の指導に時間をさくことが出来ていませんでした。二年目だからと部全体のことはあまり考えずに伸び伸びと過ごしてしまいました。オフから団体をちゃんと意識していればミスもしなかったかもしれません。50P程度僕の過ごし方次第で変えていたと思うと凄く後悔が残ります。来シーズンは自分に出来ることはすべて実行して後悔のない、全部終わった後にやり切った！と言えるように頑張ります。

僕らの代は昨シーズンは大暴れの年だったと思います。札予も選考会も大量に通りました。選考会に通らなかった同期も腐りきることなく藻岩でしっかり練習して朝里では決勝まで12人残るという意味の分からないことを成し遂げました。まるでカーニバルですね。めっちゃ楽しかったです。みんなのお陰で本当に楽しい一年間でした。ありがとうございました。

師匠の代とも言える執行部の代が今年で引退になってしまいました。当たり前ですが朝里大会でいつも居たしゅんさん達が居ないことに気づいてそれを実感しました。ロビーでゆうたろうさんにビデオを見てもらったことやグリーンコブでダンスする白鳥さんを思い出して寂しくなりました。追いコンでしゅんさんが弟子達の代だから特別な思い出があると言ってくさいましたが、それは僕らも同じです。2個上の代が現役ではなくなってしまうことがとても悲しく、心細いです。ただ、いつまでも頼ってばかりじゃいけません。僕らの代が2個上の代を慕うように、2年生、1年生に慕われる執行部にしていきたいです。

今年は、個人としては50位以内を取ってスーパーシード権を獲得すること、またエレとしてはこの二年間為し得なかった総合優勝を、そして団体も優勝してエレの夢である岩岳完全制覇を目標に貪欲に追い求めていきます。頭がおかしいけど最高な第53代執行部を最強の代にして絶対に優勝しましょう！

遠藤大斗

去年書いた SPUR を見て反省しかしてなかったので今年は前向きなことを書こうと思いましたがそんなことは到底思いつかなかったので今年も反省点を並べようと思います。

オフシーズンから反省しようと思います。エープラスに加入してからとりあえず入ったからにはオフシーズンのトレにはできるだけ参加しようと思って頑張って行ってたつもりです。シーズンオフシーズン入ってからずっとインラインは絶対しようって思っててそれに関してはかなり実行できたと思います。秋頃はかなり河川敷に行ってたせいでインラインが壊れてしまったので今年のインラインのモチベーションはちょっと下がってしまいましたがその分、去年実行できなかった筋肉と体力に関しては今年オフから頑張ってつけようと思います。

シーズンに関してシーズン初期はとりあえず同期に追いつこうと楽しくもないオーズに頑張っていた。うまくあの細いバーンを周りが小回りしていく中落とされているだけでとても悲しかったですがそれでもなんとか滑ろうとしていました。小樽予選では大回りがちょっと点が出てくれて嬉しく自分の成長が少し感じられたとともに小回り系（特にコブ）から逃げ続けたことを痛感されました。道予まであと少しだったので今年こそは道予は絶対滑りたいと思っています。選考会に関してもコブ…って感じで他の種目もあと数点ずつ足りなくて単純に実力不足だと思いました。藻岩時期は劣化版、強化版とか言われてちょっとは嬉しかったのですがどの種目もただの劣化版だなんて思ってて周りの同期に追いつくためにもなんとか頑張れたかなとは思っています。岩岳時期は別に楽しいわけでも辛いわけでもなく傍観者のようにサポートをしたような記憶しかありません。札幌に帰ってきてからは春雪で大回り系種目がつらくなりつつもオーズに行き練習はできてたと思います。朝里大会では予選では同期と同じぐらい点が出てくれてかなり嬉しかったです。準決では大回りからミスってその後総滑で手をつき、コブで脱レーンしながら（ここでもコブ）小回りでなんとか耐えて最下位での決勝通過が決まった時これまでになく喜んだのを覚えています。決勝は同期で遊んだりリズム変化小回り縛りが面白かった記憶しかないです。春になったらずっとコブをしようと思って国際ではコブにとにかく入った、でも特に成長するわけでもなく圧倒的な体力と筋力の足りなさを実感させられた。これでオフシーズンの目標が体力、筋力、柔軟性の向上という頭の悪いものになってしまった。シーズン通してコブと小回りに悩まされたシーズンだったと思います。別に大回りもそんなうまくなったわけではないので来シーズンは小回り系に重きを置きつつ練習していきたい。今思えばシーズン中、やっぱり考えることはしているけれども考えが浅かったり実行しようとしていなかったりなど自分の甘さがよく出たシーズンだったと思う。そういうところもオフシーズンから少しずつ直していきたい。来シーズンの目標はとにかく個人戦選手になることと道予に出場することを挙げておこうと思います。最後になりましたが一緒に滑って教えてくれたせなさん、浅野、竜之助と他の先輩方、同期、後輩にはとても感謝しています、今年もよろしく願います。

大野雅史

昨年度、SPUR を書いてからもう一年が経ちました。思い返してみると、この一年過ぎるのが早かったように感じます。

シーズンが終わり、思うのはスキーと向き合い続ける大切さと難しさです。スキーをやっていく中でどうしても上手いかないことや、伸び悩むことがあります。当たり前のことですが、その事から逃げ出さずに向き合う事が出来るかどうかが大切だと強く感じました。このシーズンは自分の中で小回り系、特にコブに力を入れて練習しようという目標をもって臨みました。その結果、小回りとコブは成長出来て岩岳ではコブは4位という成績を残せました。ただその反面、大回りに関しては向き合う事から逃げてしまい疎かになってしまったと思います。そのツケが岩岳でスーシーまであと5ポイント足りなかった事や朝里大会での順位という形で現れて、悔しい思いをしました。来年は苦手な種目をなくしていけるようにもう少しバランス良く練習を行なっていこうと思います。今年の方針でコブに頼らないと

いうのもあり、今の自分は全力でコブに頼ってしまっているのになんとかしたいと思います。コブで頑張るのはやめませんが、それだけにならないようにしていきたいです。

今までは教えてもらっていただけでしたが来シーズンからは師匠をやり人に教えるということが多くなります。今までは自分のことだけを考えておけば良かったのですがそれだけではなく弟子のことについても考える必要があります。今のままでは不甲斐ない師匠になってしまうと思うのでオフシーズンの間、去年以上に色々と研究をして知識を増やしていきたいです。自分が考えていることをしっかりと伝えて役立ててもらえるようなことを教えられるように頑張ります。

来シーズンの目標は道大会決勝進出と岩岳大会でスーシーを取ることです。今の実力では難しいとは思いますが高い目標をもって練習に励み絶対に達成したいと思います。細かいところでは大回りは同期と張り合えるようなレベル、コブ、小回りは誰にも負けないようなレベルになれるように頑張ります。これらの目標を達成するためにもオフシーズンの中から理論を組み立てていき、シーズン中もスキークートなどを活用して常に考え続けていきたいです。また今年は執行部という立場で部を引っ張っていく存在だと思うので執行部全員でスキーに打ち込んで部を盛り上げていきたいです。

最後になりましたが、この一年お世話になったコーチの方々、師匠や先輩、一緒に滑ってくれた同期と後輩の皆さんに心より感謝申し上げます。来年もよろしくお祈りします。

越智千賀子

函館に移行して早くも2ヶ月が経ちました。エレガントスキー部と離れすぎて、正直去年のことを思い出そうとしても、あんまり記憶はないのですが頑張って書いていきます。

まずは、オフシーズン。正直全然頑張っていません。すみませんでした。

オフシーズンは書くことがないので、シーズンのことを書いていきたいです。昨シーズンは、スキーをするのが楽しかったので、沢山滑りました。そして、通学時間やオーズへのバスなどで毎日動画を見て、自分の滑りのどこがいけないのか考えていたと思います。スキーに費やした時間はとても多かったと思うのですが、結果が全く伴いませんでした。札幌予選、選考会、岩岳、朝里大会どれも同期女子に負けてばかりで、どれだけ滑っても追いつけませんでした。特に、岩岳大会中は、藻岩の時期に毎日小樽から朝一で通って本当に大変で、だけど何とかみんなに追いつきたくて頑張りましたが、本当に自分の実力が足らな過ぎて、でももうどうしようもなくて、しんどかったです。

大会にかける気持ちとか、オフシーズンの頑張りとか、スキーについての貪欲な姿勢とかみんなよりも頑張っていないところは沢山思い浮かびます。今年は、札幌にいないので、オフシーズンは特に自分との戦いになります。正直オフシーズンを頑張れる自信は私にはありませんが、嫌いなこともやらないと結果を出せるわけがないので、頑張りたいと思います。シーズン中も今年は絶対滑走日数が少なくなりますが、動画を研究したり、スキーについての本を読んだりして知識を増やしながら、去年より効率的な練習をおこなえるようにしたいと思います。

今シーズンこんなにスキーを頑張れたのは、エレガントスキー部の皆さんが毎日スキー場に行くという努力している姿を見ていたことと自分自身がスキーというスポーツを楽しんで行えたからだと思います。

来年は、絶対去年よりは滑れませんが、同期女子の皆さんの脅威になれるような存在になれるよう、そしてエレガントスキー部が男女総合優勝できるように、精一杯努力します！

北村文香

2年目のスキーは楽しかった。

今年も時間があればスキー場に通い、たくさん滑った。去年のspurに書いた”楽しくスキーをする”ことができ良かった。氷のような初期オーズも結構好きだし、メイン合宿から4日間のチーム合宿に行く気合だけで乗り切るような日程も割と楽しかった。学科の実習から夜行バスで岩岳に向かったのも結構いい思い出だし、藻岩の休息日に団体練をしたこともあった。公式練も楽しかった。今思えば今年も色々なことがあった。ただ、がむしゃらに滑りすぎたのももう少し考えをまとめる時間を増やした方が良かったかもしれない。

スキーは楽しかったが、成績は反省すべきものばかりだった。

年末の検定ではコブにマイナス2がついたことで1級が取れず、小樽予選に出ることができなかった。同期が立派に滑り降りるのを見ている時は情けなかったし、悔しかった。しかし圧倒的マイナスで検定に落ちたことはコブを練習するモチベーションに繋がりが良かったのかもしれない。選考会までの期間は、新しい板を犠牲にして1日中ブッシュだらけのコブに入ったりしていた。結局選考会のコブも大した滑りではなかったが、あの練習がなかったらもっと酷いものだったのだと思っている。

大会では整地で転んだことが大きな心残りになった。本番を想定した練習が不十分だった。岩岳では216と多くの人は見ることのないような点数を叩き出し、ポイントを稼ぐことができず申し訳ない気持ちでいっぱいだった。その一方で、大会が嫌で仕方なかった去年とは違い、楽しんで大会に臨めた点は良かったと思っている。

団体はOGさんやサポートの方など、多くの方が支えてくださってなんとかやり切れたと思う。団体未経験者ばかりで練習は常に手探りの状態だった。何本滑っても合わず辛かったし、何日練習しても滑り出す時は毎回緊張した。だが、それでも休憩を取らずに一生懸命に練習する女子Bチの雰囲気が好きだった。リフトでは他愛ない話で盛り上がりすぎて本当に楽しかった。そのおかげでなんとか頑張れた。

本番は緊張した。特に規定はスタート前の記憶が全くない。滑り出すとバーンが想像以上に固くて、焦っている内に終わっていた。今でも規定の動画は怖くて見るができない。支えてくださったり、応援して下さった方には結果を残すことができず申し訳ない気持ちでいっぱいだ。来年こそはこの経験を生かして結果を出したい。

朝里でもリズム変化小回りで転び、情けない結果となってしまった。練習不足と実力不足を感じた。ただシーズン最後なので少し自分を甘やかすと、今年はブルーで止まることもできたし、コブは去年より20点以上伸びたし1年間で少しは成長できたかなとも思っている。

また、チームに入れていただいたことは大きな刺激になった。周りは上手な人ばかりでついていけないことも多かったが、どうにか食らいつきたいと必死で頑張ったつもりだ。特に合宿は出来ないことだらけで苦しかった。今シーズンで1番腐っていた4日間だったと思う。しかし今思えば自分で自分を

追い詰めていっぱいいっぱいになっていただけだった気もする。来年は同じ合宿をしっかりと滑り切れるだけの実力をつけるつもりだ。辛いことも多かったが、レベルの高い同期や先輩と練習させてもらえることや、基礎スキーにとらわれすぎずスキーができる環境はとても恵まれていると思う。そんなチームのスタイルが好きなので今年も頑張りたい。

最後に、今シーズンもご指導くださったコーチや先輩方、一緒に滑ってくれた同期、団体では練習に来てくださったOBOGさん、サポートしてくださった方々にとっても感謝している。ありがとうございました。

後藤雅貴

ありきたりな始まりだとは思いますが、2年目を終えてこのSPURをまた書くことになるとは、1年間は本当に早く過ぎるものだなあと思う。昨シーズンをこのSRURで振り返ってみようと思う。

あっという間に1年目は終わり、2年目オフシーズンに突入。あんなに忙しかったシーズンと比べると落ち着いていてのんびりと過ごすことができた。幸い夏タームは授業がほとんどなく、トレもしっかりとこなし、ほほほ後悔のないオフシーズンだったかなあと思う。

そんなオフシーズンがこれでもかと思うくらいすぐに過ぎ去ってしまい、シーズンイン。2年目シーズンを総括すると、全体を通してつらいものだったと言える。シーズンに入って序盤の11,12月は時間を見つけてスキー場に通って練習した。特に、2年生になると1年生よりも教えてもらえる機会が格段に減ったため、自分で上手くなるために考えて滑った。その頃は、充実した練習もできて楽しかった。しかし、あの個人戦選考会の日、楽しかった練習は崩れ去りつらいシーズンへと変わってしまった。選考会当日、体調が万全でないながらも最後の調整として何本もダウンヒルを滑っていたのだが、ある1本で悪雪にはまって転倒し、ダウンヒルを転がった。その時はアドレナリンが出ていたのか何も気が付かずに滑っていたのだが、本番前の休憩で確認してみたところ、まさかの左ひざ下を切っており血がダラダラと流れていた。今では笑い話にできるが、当時の自分にとっては、とてもショックであった。選考会はどのような結果になるか分からないが、とりあえず今までやってきた練習を発揮しようという心持でいた。それなのに、自分はそのスタートラインにさえ立てなかった。今まで、なんで必死に練習してきたのが分からなくなってしまった。ケガの治療とともにテスト期間へと入って、しばらくスキーとは距離を置くこととなり、良い機会だなあと思い休養することにした。

そして、ケガが完治して復帰のタイミングと同時に2月のモイワ時期に突入。思い返すと、あのモイワ時期は正直なところシーズン中で1番つらかったと思う。しかし、良い意味でも悪い意味でも充実しており最も印象深い。ケガした分を取り返すためにもなるべく朝一で滑るようにした。このモイワ時期のころは、ひたすら考えてがむしゃらに練習した。とにかく滑りを変えようと頑張っていたが、なかなか上手くはならなかった。何回もコブに入って練習しても全然滑れず、はじき出された。この時は、上手くなることはもう無理なのかもしれないと本当にあきらめそうだった。しかし、同じようにつらい思いを持ちながらも必死で練習をしている同期を見て、自分もあきらめてはいけないと思い、頑張ることができた。

そんな感じでモイワ時期を終え、岩岳はサポートに尽力し、朝里大会でも予選敗退という無残な結果で終えた。このように、3月まではつらいことの方が多かった。しかし、4月の春連では、何人かの人が「コブ上手くなったね」と言ってくれてうれしかった。努力の成果が少しは現れたと思う。朝里大会前に1級を取れたことは、最低限のノルマは達成できたかなと思う。

こんな感じで、良くも悪くも充実したシーズンであったわけだ。そして、今3年目のオフシーズンに突入した。3年目になって、色々と責任や仕事を持つようになり忙しい毎日を過ごしている。自分たちが指示を出して、後輩や部を動かす立場になってしまったなあと本当に実感する。結局、2年目は上手いかないことの方が多かった。3年目になると1年目の指導や外からのプレッシャー・仕事の責任を感じるが多くなると思う。そのプレッシャーと闘いながら上手くならないといけないので大変だと思う。しかし、だからこそそれに負けないようあきらめずに頑張っていきたい。来シーズンに解決しないといけない技術的な課題もたくさんあり、良い結果も出したいので、やらないといけないことがたくさんある。まだまだ自分が満足するようなレベルに達していない。3年目のシーズンもあきらめずに努力し、少しでも上手くなりたい。そして、スキーを楽しむことも忘れないようにしたい。

最後に、昨シーズンお世話になった先輩方・師匠・コーチ・同期・後輩には心から感謝したい。ありがとうございました！

佐藤修平

今年一年の振り返りとして、オフシーズンはあんまり覚えていません。ですが、師弟トレは覚えています。憲太郎さんの筋肉に圧倒され、ヒイヒイ言いながらランニングをしたり、バーベルを上げたりしました。先輩からのお誘いでトレが雨の日や外部コーチのトレにも参加し、シーズン前の追い込みとしてはいいものでした。

シーズンが始まってからは常に師匠の教えを元に練習してきました。迷ったりうまくいかなかったりした時にはスキーノートを振り返り、原点に立ち返ることで迷走しないで済みました。来年も憲太郎さんの教えに基づいた滑りをして技術向上を図りたいと思います。またスキーノートについて最初は嫌々言っていました、時間が経つにつれて練習の振り返りや覚え書きをするものとして有用性が感じられてきました。自分はただ文章を書くだけのまとめ方でしたが、兄弟弟子のノートはイラスト付きで手が込んでいるな~と思ったり、憲太郎さんのノートには弟子一人一人へのコメントが書いてあり、有難いと感じました。あまり成長を見せられずにシーズンが終わってしまい申し訳ない気持ちはあります。というのも手稲での札予はインフルで出場できず、個人戦選考会は当日の練習中に2、3本目でこけてそのままシーズン終了の怪我を負ってしまったからです。今までこういった怪我をしたことがないため、怪我した直後にあまり人を頼ることができずに結局気にかけてくれたのが師匠や兄弟弟子だったので本当に感謝しています。

怪我によってシーズン半ばで終わってしまい藻岩時期での部のみんなとの交流ができない時期はたまに関とリハビリ中に会ったり、ご飯に行ったりして過ごしていました。そこまで気落ちすることもなく過ごしていました。ただみんなとの差ができてしまったり、検定の結果を知れなかったりするのがちょっと寂しかったのはあります。スキーの技術に優劣はついてしまっていますが、他人と比べることより

過去の自分と比べるマイペースな質なので大して気にしてはいないです。それに岩岳もサポートとしてですが参加でき、先輩、同期、後輩の上手くなった姿、師匠の表彰台に乗る姿が見られたので満足しました。朝里大会では学連としての仕事に専念していました。3年になってからは学連の役員としての仕事が待ち受けているのでそれも頑張りたいです。

今シーズンは年明けから体調不良やら怪我やらで不運なこと続きでしたが、そんな年もある、起きてしまったことは仕方がないと割り切って執行部となる新年度から気持ちを改めて鍛えなおそうと思っています。すでに新体制が始まって1ヵ月が経っていますが、先輩方の苦勞をこの身で感じて先が思いやられます。同期と協力してやり切っていこうと思います。

新川末緒

昨年度はスキーのことしか考えていなかったかもしれません（笑）。

前のシーズン後半で、滑りが変わらないのは筋肉が足りないからと言われたことが悔しくて、オフは自分なりに筋トレを頑張ってみました。また、札マラを目標に少し走ったりもしました。実際どれくらいスキーに活きたのかはわからないのですが、やることやったぞ、という思いでオンシーズンに入れたことは良かったと思います。

シーズン序盤は、言われ続けていた「みおみおしき」をなくすためにとにかく小回りをしました。スキーノートを見返すと、12月中は毎日小回りのことしか書いてなくて驚きです。合同合宿、メイン合宿と多くのコーチの方に教わり、滑りを変えている実感が得られてとても楽しかったです。滑りの調子はこの頃が一番良かったのかもしれません。年が明けると、事件だらけでした。

【事件簿】

札子

直前練習で大転倒…目撃者によると、宙を舞ったそうな（笑）。割と強行出場でしたが、アドレナリンの力を実感しましたね。まさかの道予に滑り込みました。あらかわ選手の誕生。

選考会

兄弟弟子が腕を持っていかれました。無事復帰できて本当に良かった！

道予

滑落。今回は無傷だったので笑って降りてきたのですが…板が身代わりになってくれたようです。最下位をもぎ取りました。絶対リベンジします！

ポール合宿

あれ？踏むたびに板が外れるぞ？ビンディングの調整不良のため一時帰札。ここでトラブルメーカーの称号をいただきました。

団体練

キャラ変（笑）。Aチに入れていただき、団体を楽しむことができました。しかし、ラスト3日にして衝突事故！？ご心配とご迷惑をおかけして、本当に申し訳ないです…。

岩岳大会

本選の直前に滑落、デジャブですね。メンタルズタボロになりましたが、サポートの方々に助けていただきました。ありがとうございました。大会中は去年とは比べ物にならないほど忙しかったですが、無事全て滑りきることができて良かったです。また泣きました。

朝里大会

準決でコブ点出た！調子に乗らないようにしたのですが…決勝でコブ転倒。やはり収まるところに収まります。

トラブルメーカーの名に恥じない活躍でしたが、今シーズンは終始スキーを楽しむことができました。上手いかないときも前向きに解決策を考え、前進し続けられたことが今年が一番の成長した点だと思います。大会の結果としてはもっと上に行きたかった思いもありますが、概ね実力通りです。滑りを変えなきゃこれより上には行けません。来シーズンは、選考会1位、道予最下位脱却、岩岳スーシー、岩岳男女総合優勝、国試合格を目標に毎日貪欲に滑りの変化を追い求めていきます。

最後になりましたが、今シーズンを通して、本当にたくさんの方に支えていただいていることを実感しました。師匠には気苦労をかけすぎて申し訳なかったです。あまり褒められませんでした。だから成長できたのだと思います。2年連続兄弟弟子の一平は、ごめんね、って感じだけお互い様だね(笑)。来年からはチームの先輩としてよろしくお願いします。今年から一緒に修平は、あんまり喋ったことなかったから心配だったんだけど、気楽に話せてよかった！来年はもっと一緒に滑りたいね。教えてください。くださったコーチの方々、サポートしてくださったOB・OGの方々、一緒に滑って頂いた先輩方、同期・後輩の皆、生活を支えてくれた家族に、本当に感謝しています。ありがとうございました。結果で恩返しするので、来シーズンもよろしくお願いします！

鈴木良育

Spur ということで昨年度を振り返っていいこうと思う。オフシーズンは主にスラックラインとインラインをずっとやっていた。馬鹿みたいにやっていたので、両方ともわりとできるようになって楽しかった。また、昨年からはチームに入ったので、エレ以外でもオフトレをしていた。多いときは週6でオフトレをしていた時期もあった。そのおかげでオフから常にスキーのことを考えていることができて良かったと思っている。

そんなこんなであつという間にシーズンインした。今年は馬鹿みたいに滑った。滑走日数だけでもエレで一番になろうとひたすらオーズに通った。シーズンは行事ごとに振りかえっていく。

- ・シーズンインからメイン合宿まで

みんなと違い全休がなかったこともあってオーズがオープンしてからひたすら通い続けた。今年はオーズのオープンが遅く、オープンしても雪不足だったのでバーンが最悪で渋い日々を過ごしていた。

- ・メイン合宿

例年通りの豪雪で全然練習できなかったけど、パウダーの楽しさを知ることができて良かった。

- ・チーム合宿

年末年始はチーム合宿だった。前半二日はひたすらポールに入り続けた。ここで初めてポールのタイ

ム測りながら滑った。チームの先輩たちや同期のほうが自分より全然早くとても良い刺激になった。また、自分の滑りを大きく変える事にもなってよかった。

・札幌予選

結果は予選を通過することができなかった。同期が何人も通っているのに自分は通れなかったのでも悔しかった。

・選考会

選考会に通ることを目標にずっとやってきたので、通れた時はめちゃめちゃ嬉しかった。同時に団体メンバーにも入ることになった。団体はずっと憧れていたのでメンバーに入れて嬉しかったが、トップをやることになってしまい、不安な気持ちもあった。

・藻岩時期

この時期は団体練をしていた記憶しかない。滑ってはOBさんに怒られて渋い日々を繰り返していた。団体メンバー全員が未経験者だったのではじめのほうは全くあわなかった。後は、フリーをしたかったから毎回朝一で藻岩に行っていた気がする。

・岩岳大会

一年の時とは比べ物にならないくらい緊張した。個人としての結果は渋いものだったので来年必ずリベンジしたい。団体はぎりぎり表彰台に乗れてよかった。総合優勝まで後少しで届かなかったのは悔しかったけど、最後まで優勝争いできたのは楽しかった。

シーズンをざっと振り返るとこんな感じです。今年の部としての目標は岩岳総合優勝なので、執行部としてできる事をやっていきたいと思っています。最後に、お世話になったコーチの方々、先輩方や師匠、一緒に滑ってくれた同期や後輩の皆さんには心より感謝申し上げます。

高橋玄

昨シーズンについて一言で言うのであれば、「しぶい」の一言に尽きる。

昨シーズンをオフから振り返ってみる。

一年生の時の目標であった一級の取得が達成されていたため、正直オフシーズン初期は目的を失っていた。スキーの費用を補うためにアルバイトばかりし、また、釧路にタンチョウを捕まえに行ったり、三笠でアンモナイトを掘っていた。それはそれで滅多にできないとても貴重な体験になったのだが、スキー的には少しもったいないオフの過ごし方であったと反省もしている。夏になり、インラインの動画を撮った時に雪上での癖が現れていて、そのとき初めてインラインとスキーの関連を実感することができた。それを実感してからは、インラインがとても楽しくなり、夏休みの終盤はほぼ毎日インラインをしていた。また、行けば毎日河川敷にいる同期も頼もしかった。

シーズンインしてからも、試したいことがとてもたくさんあったので、オーンズに行くのが毎日とても楽しみだった。しかし、自分の理論が間違っていることに気付かず練習を重ねていたせい、滑りに限界が来て、札予や選考会では思うような結果が出ず、しっかりと渋みを味わった。あまりに渋すぎたので、だいぶ渋み耐性はついたと思う。

藻岩時期はこの渋みを原動力に全て朝一で藻岩に行くことと決め、滑り倒した。藻岩時期終盤にはすねにキ

ャンサーができるという異常事態が発生したが、そこを湿布と気合いで乗り切ったのは自分でもよくやったなと思うと同時に、だいぶ脳筋になったなあと感慨深かった。藻岩時期に小回りをとにかくやったので、朝里大会で小回りの成果が出たらいいなと期待していたが、全く出ず、またまた渋みを感じた。しかし、去年行くことができなかった朝里大会決勝に進出できて、最後の最後に成長を実感できたことがただただ嬉しかった。(ヤツと同じ順位というのが気に食わなかったが…)

そんなこんなで、一年間を振り返ってみた。

今シーズンの目標は

- ・テクニカルプライズの取得
- ・道大会出場
- ・岩岳個人戦出場

である。この3つを達成できるよう努力していきたい。

また、僕がエレと関わるのも基礎スキーをするのも今年で最後になるかもしれないので、1つ1つの行事を噛み締めながら今年一年過ごしていきたいと思っている。

最後に、昨シーズン一緒に滑っていただいた先輩方や同期、後輩、師匠の白鳥さん、兄弟弟子、303のメンバーには多大なる感謝を、ということで終わります。

本田敦

2度目のSPURを書く時期がやってきました。

思えば一年前、エレガントスキー部の新たな一員として過ごした一年の振り返りとして1度目のSPURを書いたとき、あまりにも暗い反省文のようなものが出来上がり、「来シーズンこそは明るいSPURが書けるよう頑張りたい」と思ったのを覚えています。

そんな今シーズンが終わって今感じていること、、、

「反省文すら書けくない？」

札予にも岩岳にも出られず、朝里も予選で終わってしまった。日々の練習のことを書くのはSPURというより技術論のような気がする。振り返れることといえば1級が取れたことと岩岳幹事をしたことぐらいでしょうか。1級は取れてよかったです、何回も落ちたけど。岩岳幹事はかなり大変でしたが、周囲の協力もあり無事終えることができたと思います。助けていただいた同期や先輩方、本当にありがとうございました。ただ、一部の同期には反省しろよと言いたいですね。

書くことがないので振り返りはサクッとここまで。ここからは来シーズンについて書いていきましょう。今年の目標は以下の三つです。

- ①オフに自主的に運動する。特に走る！
- ②弟子にも、自分にも良いシーズンにする。
- ③執行部としての職務を全うする。

①はオフシーズンの過ごし方についてです。この2年間を冷静に考えてみると、スキーがどうこの前にまず身体作りができていなかったと思います、特に基本的な走り込みが必要であると感じました。このSPURを書いている時点まではテストなどもあり、あまり多くは走れていませんでしたが、それでもトレ合宿のランニングなどで少しはましになってきていることを実感できました。この取り組みがスキーに生きてくるかはわかりませんが、今年は札幌マラソンの10kmの部に出ることも決まっているので、そういったこともモチベーションにして今後もうまくやっていたらなと思っています。

シーズン中の目標はいろいろ考えてみましたが、細かく「〇〇大会でこんな成績を残す!」といった目標よりも、大雑把ですが②が一番しっくりきました。こんな下手くそスキーヤーの自分にも今年は弟子がつくことになり、自分のスキー技術の向上だけを考えていけばいいシーズンではなくなる。そういった中で自分にも、弟子にも良いシーズンとするためにはどうすればよいかをしっかりと考えてシーズンに臨み、過ごしていければなと思います。

そして③。特に書くことはありませんが、この3つの目標の中で一番大事なことだと思ってやっています。

今年はエレの一員として過ごす中で最も大事な一年になると思います。来年の今頃は解放感と共に充実したSPURが書けるよう、この1年を駆け抜けていこうと思います。

森田一平

書き出しが決まらない。ってことで箇条書きでいきます。

師弟のこと

師匠の憲太郎さんには一生頭が上がりなさそうです。チーム練、公式練、団体、コバンザメのようにならずと憲太郎の側にいました。これだけいると憲太郎さんもきっと、弟子のことがうざいと思う瞬間は多々あったと思います。何せ自分もたまに…何でもないです。まとめると、滑りをボロクソに言われたり、ひたすらブルークと小回りしかさせられなかったり、凹むことも多かったですが、シーズン終盤になるにつれて基礎的な部分が少しずつ噛み合せて上手くなってきてるのを物凄く実感しました。選考会でも岩岳でも団体でも、弟子のことを気にかけてくれたのは本当に嬉しくて最強の心の支えになりました。こんな師匠になってみたいなと心から思いました。来年頑張ります。

兄弟弟子は、しゅーへーと、2年連続あらかわ選手。癖が強い(全員)。しゅーへーは途中で怪我しちゃったのが心残りだけど来年こそスキー楽しんでほしい。あらかわはいじられキャラになったね。でも公式練でいじるとたまにキレてるよね。で、付き合ったよね。キレてた理由が分かったわ。

チームと技術選のこと

憧れのフォルチに入りました。自分は下手でしたが、理論がしっかりしてて、何をすべきかを明確に示してくれたのでシーズン中に滑りで迷うことはありませんでした。今シーズン、上手くなった源はほとんどチーム関連の方々でした。感謝しています。

しかあし、札幌予選、急斜大回り、244。下手だった。上手くなると勝手に思ってたのが簡単に崩れ落ちました。さらに実感したのは道予に出ないのに行ったチームの道予練習。自分の下手さが明確になり、東出さんにボコボコにされ、リフトで号泣しました。スキーやってて初めて泣きました。メンヘラでしょうか、、、

岩岳のこと

挫折から紆余曲折あり、個人戦選手、団体Aチに入りました。個人戦は去年の新人戦のリベンジに燃えました。しかし、結果が100位を割れなかったので来年もういっかいリベンジします。スーシー取れたら岩岳のジャッジにぎまあって言う予定です。

団体Aチは濃かったです。全員先輩、はじめての団体ではじめてのAチ、分からないこと、できないことが多すぎて色々ご迷惑をおかけしました。でも先輩達と滑ってる時間、団体について話し合う時間、一緒の部屋で喋る時間、凄く楽しかったです。本当にありがとうございました。結果は3位と、優勝できなかったことに関して物凄く悔しさが残りましたが、それも来年、リベンジします。先輩の分まで勝ちにいきます。

初めての個人戦、団体ということで岩岳は毎日滑り倒しました。その裏でワックス塗ってくれたり、ビデオ撮ってくれたり、板を見守ってくれたりとサポートの方々に大変お世話になったのですが、自分のことで精一杯であり感謝をお伝えすることができなかったと思います。すみません。

同期と今後の執行部のこと

なんか執行部になって仲良くなった気がします。団結感が出てきて部活の目標である岩岳優勝に向かって進んでいる感じがします。ただ、それと同時にエレは岩岳優勝のための部活と言って、正義を振りかざし同期を傷つけている排他的な同期もよく見ます。確かに岩岳優勝は絶対的な目標であり部活として部員として目指すべきゴールであることに間違いはありません。しかし、それに固執しすぎて選手ではない部員やモチベーションが低い部員に対して強く当たっている姿もよく見ます。輪の中に入れなかった部員は部活を辞めるか、干されるかの選択を迫られています。こんな調子で部活でやっても良い人間性が育まれるのか、はたまた岩岳で優勝して嬉しいのかっていうのは疑問です。まあ自分達が楽しければそれで良いて人達は楽しいでしょうが。もう少し、人の立場と考えを理解してお互いに尊重できるような部活であれば良いのかなと思います。

来年の目標

道予選決勝

諸岡航太朗

昨年の SPUR にて、某部員が僕だと思われる人物を散々煽るような内容を書いていた。仮にこの人物を G とするが、僕は G のように器が小さくないのでやり返すような仕返しは控えておく。

2 年が一番楽しいと話す先輩が多いが、実際本当に楽しい一年だった。

正直オフシーズンは感覚的にあまりにも一瞬すぎてほとんど覚えていない笑。オフトレ中の細かい反省点は置いておくとして、大きな反省点としては 2 つ。1 つめが新歓レクについて、2 つめがトレでの怪我について。1 つめは新刊レクの時の体育館係としての反省である。内容としては、僕のせいで使う予定だった体育館が使えなくなってしまい、執行部の方々および新生生には多大な迷惑をかけてしまった。心からお詫び申し上げます。猛省し、この後の体育館係の仕事はしっかりとこなすことができたと思う。2 つめのけがについて。これはトレ中に怪我をしてしまい、ほかの部員と同じメニューができない時期が一時あり、辛い思いをした。シンプルにさみしかったというのものもある。怪我は自己管理能力の甘さが招くものだと言われたことがあるが、その通りだと思う。今年度はいよいよ執行部になるのだからより一層気を付けていかなければならない。

そしてシーズン中について。1 年生ではほぼ初めてのスキー、具体的にはハの字で曲がる・止まることの練習から始まった去年もかなり濃い内容だったが、今シーズンも負けず劣らず濃いシーズンとなった。

細かい流れは冗長なので省略するが、1 級の取得から始まり、僕が 15 位で通過した波乱の選考会を経て、個人戦選手として藻岩時期に練習を重ね、岩岳・朝里へと臨んだ。実習の関係で数回練習に参加できないことを踏まえて団体を辞退し、選考会で同点だった凌太朗さんが団体のメンバーになった。このことは結果的に僕と凌太朗さんがそれぞれ個人演技と団体演技に集中して練習に取り組めたのでうまくいったと思う。

少しここで岩岳について触れておきたい。僕は 15 位というギリギリで選考会を通過したのだが、当然エレの個人戦選手の中では一番下手くそで、団体も凌太朗さんに任せてしまったのでしっかりと成績を残してエレの優勝に貢献しなければならないという人一倍強い重圧が常に付きまとっていた。練習を重ねても目に見える上達というのはなかなか現れず、それがさらに焦りを呼ぶ。それを振り払うようにながむしゃらに日々練習を繰り返す。しかしやはり成果が出ない。この負の連鎖にしばらく耐え忍んでいたわけだが、2 月のある日についにメンタルの許容量を超え、ロッジでみんなの前で泣いてしまった。とある先輩から練習中にいただいた厳しめなお言葉を受け止めるだけの心の余裕がなかったことが原因であった。しかしその先輩に対してマイナスの感情は一切抱いていない。言わなければならないことを言うべきタイミングではっきり言ってくださる先輩は貴重だし、事実その日に負の連鎖を断ち切り、心機一転練習に真摯に取り組むことができた。

そして岩岳に突入した。このとき最も恐れていたことが本選落ちである。本来、チームの代表としての最低条件、というかもはや前提条件として決戦まで進んだうえでいかに点を取るかを課題にしなければならなかった。しかし、過去の動画と今の自分の滑りを比較したとき本選落ちの可能性は十分にあり、決戦のことなど全く考えることができなかった。

そして本選。1種目目、総滑。外足飛ばしたわりに点が出て、耐え。2種目目、小回り。藻岩の時にボロカスに言われ最も不安だったが、1ターン1ターンを何とか作ることができていたので点数的にはまあ耐え。この段階で自分の想定より点が出ており、確実に天狗になっていた。そして3種目目、リズム変化小回り。天狗になって足元をすくわれた。ギルランでがつつり転倒。その上、ギルランの前の小回りもかなりひどかった。天狗には耐える力がなく、僕は絶望した。

しかし、滑走順に救われ、本選232位で決戦に駒を進めることができた。本選が終わった段階でもう岩岳は終了した可能性も十分あると思っていたので、リザルトで自分の名前を探すときは受験の合格発表のような感覚だった。最低条件をクリアできたことで大きな肩の荷が下り、決戦では楽しく滑ることができた。とは言っても悔やまれる反省点の一つ。コブでは藻岩での練習の成果を十分に発揮することができず、結局超ゆっくり安定ズルドンになってしまった。モイワのクリスタルやうさぎの深いコブばかりではなく浅いコブも来シーズンはしっかり入ろうと決めた。

このSPURを書いている段階でもう執行部は始まっており、シーズン頃には師匠をしているはずである。現段階で人に教えるのは非常に苦手であり、また自分の技術面もまだまだだが、弟子のためにももうそんなことを言える時期ではなくなってしまった。自分の未熟さを弟子まで伝播させるわけにはいかない。今まで以上に大変になるのは当然のことではあるが、他の部員たちとスキーを楽しみながらも岩岳優勝目指して頑張っていきたい。

<2年目>

石毛奈央

私は去年の5月くらいにエレのホームページを眺めているときにSPURというページを見つけてしまい、エレがどのくらい本気でスキーに向き合っているのかがよくわかりました。そのSPURをもう自分が書くのかと思うと、本当に1年があっという間に感じます。

まず、オフシーズンから振り返ります。私がエレに入部しようと思ったのは「せっかくだし北海道らしいことをしたい」と思ったからでした。私は6年間吹奏楽部で運動を全くしてこなかったのですが、いつものトレは相当きつかったです。でも、出来てないなりに意外と毎回あっという間に感じて、体動かすの楽しいなって思えるくらいには成長したと思います。

続いてシーズンを振り返ります。私はスキーしたことはあるくらいのド初心者だったので、とりあえずスキーの滑走日数だけは稼ごうと思い、100日を目標にしていたのですが雪不足のおかげで結局94日に終わってしまいました。でもシーズン初期は毎日、毎週できることがどんどん増えていってどんどんスピードも出せるようになって本当に楽しかったです。12月のキロロ検定で同期が2級に受かり始めてからは、焦りを感じてもっと上手になりたいと思うようになりました。選考会で初めて自分の滑りに点数をつけていただけたけど部内での自分の位置は悔しいとも思わないし嬉しくもないし微妙な結果でした。藻岩時期に入ってから毎回いろんな先輩方にご指導していただけるのに、毎回注意されることが

同じでビデオ見ても滑りが全然変わらないし落ち込むことも結構ありました。原因は疲れすぎてスキーノート書けなくて、課題を整理しきれないまま滑っていたからだと思います。来シーズンは最後までスキーノートかけるようにしたいです。そして、初めての岩岳での順位は目標以上でほんとに嬉しかったです。私はそこまで自分の結果に渋さを感じていなかったのですが、朝里の準決で初めて渋さを感じました。敗者復活で滑り込んで自分的には目標達成だったのですが、バーンの斜度と雪質のせいにして滑るのが怖くて結果はボロボロで、でもそういうバーン状況の中でも同期女子は食らいついていて自分の無力さを痛感しました。来シーズンは環境に負けない滑りをできるようにすることを目標にしたいです。

最後になりますが、シーズン中教えてくださった先輩やコーチの皆さん、師匠の真結子さん、本当にありがとうございました。ド初心者から始めてシーズン中に1級とれたのは師匠のおかげです。これからもよろしくお願いします。

石原颯馬

エレ1年目を過ごしてみて、まずはエレに入って本当に良かったと思う。私は入学してからソフトテニス部に入るつもりだった。しかし、入学式のときに高校の同級生4人で行って、帰りのバスの中で新歓スキーが出来るということを知り4人で参加することになった。その時は全く入る意思はなかったが、新歓スキーで先輩が良い人でスキーがしめ程楽しく、せっかく北海道まで来たのもあって、入部を決めた。

それからオフトレでは運動部だった自分からするとあまり厳しくないメニューだったが、股関節は固すぎた。そして、7/14 前期終了M後の飲み会の二次会で自分にとってとても大きな出来事が起きた。それは札幌にメパフェという文化があることを知ったことだ。そこでメパフェを食べてからパフェを食べるのを楽しみにトレを頑張った。今では、15店舗ぐらいいは行っている気がする...

去年は災害が本当に多かった。雨のせいでジンパが消えたと思ったらまさかの地震でグレスデン、無意根登山が無くなった。この時私は大阪に帰省していて北海道にちょうどいなかった。今思えば北大に来てから大阪で大地震が起こった。私には地震回避能力があるのかもしれない。地震は最近多いので本当に災害対策は大切だと感じた。

夏レクや秋レク、スポーツ大会やいろいろあってオフシーズンも思っていたよりずっと楽しかった。いよいよシーズンインになると、スキーしたい欲が募りすぎて国際オープン初日にドイツ語をさぼって行った。あれは完全にアホだった。さらにスキーに行きたいあまり英語も行かずに今再履修をしているのは本当に、アホですね。

シーズンに入ると、オフシーズンががんばったからすぐに滑れると思ったが、そうはいかなかった。インラインで変な癖がついて最初は変な滑り方だった。全然滑れないのにスピードだけは出すので見ているほうはこわかったと思う、先輩すいません。それから練習を何回もしているうちに何とか及第点の滑りまではもっていったと思う。自分の実力を測るために個人戦選考会に出てみたが、総滑ではこけ、コブでは暴走し、まだまだだなどと思った。新人戦選考会では、良い成績がでて嬉しかったのと同時に自分は滑りがうまくなったと錯覚した。これで後々痛い目を見ることになる。

藻岩シーズンに突入すると、先輩方は団体の練習に集中し始めた。空き時間や団体裏では教わる機会があったが、基本的には自分で考えて練習する機会が多かった。その藻岩時期に自分の滑りがどんどん迷走してしまったと思う。その結果、岩岳大会でも自分の滑りは外足がぶっとんで気持ち悪い滑りになってしまった。新人戦のアンカーということでおまけ点がついて結果はそこそこだったので自分はまだまだ大丈夫だとごまかしていた。

次に私は東北連大会に参加して、本当に納得のいかない滑りしかできなかった。このあたりから自分はまだまだという自覚がでてきて朝里大会を迎えた。朝里大会では一つも自分の思うようにいった種目がなく、敗者復活で準決勝までは進めたものの、コブでダサいこけ方をして準決勝で敗退した。準決勝で敗退したのは自分の実力なので仕方がないが、何より自分の実力が前より落ちているような気がして情けなくなってコブが終わったあと皆と顔を合わせられなかった。

1年目はいろいろ悩んだことも多かった。練習しても練習しても伸びない時期が続いた。私は時間割的にも同期内で練習量はたくさん確保できたはずなのに伸びがなかったのが悔しい。2年目ではオフトレから練習の意味を常に考えながらやっていきたい。来年こそは新人戦3位のジnkスを破って個人戦選手として岩岳に出場したい。昨シーズンのように涙を流すことなく、師匠のゆうたさんに恩を仇で返すこともなく、笑顔でシーズンを終えられるように人一倍努力して良い成績を残したい。

伊保内将太

あっという間にエレ1年目が終わってしまいました。嬉しいようで悲しい。私のエレガントスキー部での1年はとても波乱なものであったので振り返りたいと思います。

新歓スキーで始めて板をはいた私はこれから始まるスキー生活に不安を抱いていました。とりあえずオフトレで頑張ろうと思って毎週のトレに参加してみるとこれまた不思議。高校のあいだ全く運動をしていなかったため、測定会も1年の中で下から3番でした。インラインもショボかった。そうこうあって、気づいたらシーズンインの時期になっていました。とにかく焦っていたのをよく覚えています。案の定、出だしは渋かったです。この時期はオーンズがトイレットペーパーのため、自分の技術では滑りに行けませんでした。なので久しぶりの滑走が初回の公式連でした、最悪の。勿論、初級者班であったため始めはプルークから入ったのですが、なんと自分はプルークもまともにできなかったのです。あの時の師匠の絶望的な顔を良く覚えています。岩岳のメッセージカードにも書かれてしまっていました。。。あの頃はプルークも横ずらしも出来ずお手数おかけしました。そして、なんやかんやあって新人選考会になってしまいもう順位なんてどうでもいいやという状態で挑みました。しかし、どういうわけか上位に食い込めました。Why? 2月に入るといよいよ地獄の藻岩時期でした。今まで、合宿にしろ講習にしろ一番下の班だったので比較的簡単な練習をしていました。しかし、選考会後からいきなり上の班に組み込まれて難しいことをやらされ、班の中で自分だけ出来ずに悔しがっていたことが多々ありました。そのストレスからか、大回りはフォームが選考会前よりひどくなり、小回りもスピード制御ができなくなってしまいました。なんの種目も完成しないままとうとう岩岳へ出発してしまいました。そして悲劇は大会2日目に起こりました。Bバーンで小回りの練習中にコケて腰を強打しました。あの時看病してくれた浅野さんには本当に感謝しています。冗談なしに痛くて、このまま酷い結果で岩岳が終わ

るんだろうなあと落ち込んでいました。1日経って痛みが和らいだので滑りにいくと何故かフォームが絶頂期の自分に戻っていましたが、why?? その良い調子そのまま新人戦当日、師匠に付いてもらい総合滑降が始まりました。自分はというと…コケました。236点。終わったあとと思った瞬間でした。次は苦手種目の小回りでした。しかも怪我したバーンでした。無心で滑りました。248点でした。あれ?意外と高くね?why???

まじでWhyの多かった一年でした。朝里大会のプルーク6位もwhyでした。来シーズンはwhyではなく自信のある滑りをしていこうと思います。まずは小回りとコブを鍛えます。

薄井浩生

来シーズンの目標 岩岳 : スーパーシード獲得

朝里 : 入賞する

昨年の4月、せっかく北海道に来たから大学ではスキーが出来たらいいなと思い、説明もあまり聞かずになんとなくエレガントスキー部に入部した。入部してすぐにオフトレが始まった。エレのオフトレは結構、楽しかった。トレの雰囲気は、自分がアルペンをやっていた頃のトレのそれより、良かった。何故かわからないけど、毎回のトレが楽しかった。そして、だんだん同期や、先輩たちと仲良くなるにつれ、サークルの活動にはまって行ってしまった。

そして、オンシーズン!北海道のふかふかの新雪になれるのに2週間くらいかかった。最初のうちは、スキーの感覚を取り戻すのに大変だった。昔よりも退化しまくっていて、悲しかった。スキー未経験者の同期に負けるのではないかと焦った。そんな中、受けた12月半ばのキロロ検定では無事に1級に合格できた。そして、初めて参加した技術戦の大会の小樽予選でも見事予選突破をして、北海道予選へと駒を進めた。1級をとってここまで、勢いで来てしまった。もしかして自分は基礎スキーがイケてるのでは?と想着ってしまった。北海道予選の結果は予選落ちだった。総滑のゴール手前でギルランをいれて、大減速をしてしまったことが敗因だった。目標が決勝進出であったので予選敗退が決まったときはかなり悔しかった。道予選が終わると、選考会のモードにシフトした。選考会が始まる直前までは道予選で敗れたときの気持ちを引きずって不安な気持ちがあったが、無事に勝てた。ここでまた、自分はスキーがイケてるんだ!という気持ちが生じてしまった。そしてついに、岩岳大会がやってきた。岩岳の雪質に少し苦戦をしたが、本番直前までの練習の感じでは調子は悪くはなかった。普通に滑れば入賞はできると先輩に背中を押され、新人戦がスタートした。しかし、小回りを滑り終わった後の得点を見て、入賞への希望が途絶えた。今まで出したことのない低い点数を叩き出してしまったのである。電光掲示板に表示された得点を見た瞬間は何が起こっているのか理解ができず、その後の総滑も全然、気持ちの整理ができないままフィニッシュして結果は13位。悔しいという感情もなく、ただただ虚無感でいっぱいだった。今すぐにでもスキーを辞めたくなくなった。僕の気持ちは完全に折れてしまった。とりあえず、次の朝里大会までの期間で自分のスキーに対する姿勢を見つめなおすことにした。シーズン初めのころの純粹にスキーを楽しんで、常に技術の向上を図ろうとしていた自分に戻ることができた。朝里の結果は良かった。これが岩岳だったらと悔やまれたがそんなことを思ってもしょうがない。

2年として迎える来シーズンは新人戦よりももっとレベルが高くなる。オフシーズンからそのことを意識して、全国のスキーが上手い人たちと張り合えるように、岩岳でリベンジできるように、本気でトレーニングを行っていきたい。

大島晃生

僕がエレガントスキー部に入ったのは、北大に入ったらスキーをしようとなんとか思っていたからです。今までスキーは家族旅行で遊びでやる程度で、本格的にはしたことはありませんでしたが、おじさんが元エレだったこともあり入部を決断しました。でも、そんな生半可な気持ちでエレに入ったことを後悔しました。もっと、エレが運動部であるということを知った上で入るべきだったと思っています。僕は中・高と運動部ではなかったのに加え、運動神経は皆無で、何より運動があまり好きではないので、オフシーズンからのいきなりの筋トレはきついものがありました。それでも、そのトレに耐え、無事にシーズンを迎えられることは本当に良かったです。

シーズンに入り、スキーが始まると先輩方にたくさんスキーを教えてもらいました。でも、先輩が何を言っているのか分からないことや、言っていることが分かってもそれからどうやって体を動かせばいいのかわからなかったことは多々ありました。特に教えてもらう回数が多かった師匠のりょうたろうさん、スキーを教えてもらっているとき結構ポカンとしてすみませんでした！でも、たまに先輩が何を言っているのかが分かり、どうすればできるのかが分かったときはとても嬉しかったです。

そんな感じでシーズンが進んでいく中、岩岳大会がありました。結果は散々でした。順位も悔しかったのですが、何よりも力を出し切れなかったのが悔しかったです。でも、新歓合宿とシーズン直前に定めた目標である「一級をとる」は達成できたので良かったです。

来シーズンは僕は最後の札幌になるのでスキーがうまくなれるラストチャンスだと考えています。色々な斜面や雪質の雪を滑り、バーンが荒れていてもある程度安定して滑れるようになりたいです。

最後に、スキーを教えて下さったコーチの方々、師匠、先輩方、たいへんお世話になりました。来シーズンもよろしくお願ひします。

大野愛佳

<来シーズンの目標> ケガをしない・道予出場・コブ・小回りの強化

<オフシーズン> ほぼレジャーではあったが、高校もスキー部だったことからスキーが好きで、大学でもスキーがしたかったので、基礎かエレかで迷ったがエレに入った。トレも何となくこなしているだけではあったが、大学に入って新しく出会った同期ともだんだん仲良くなれて楽しかった。

<シーズン> 北海道のスキー場の寒さに驚いた。雪質も今まで滑ってきた本州の水分の多い雪とは全然違って、なかなか慣れなかったが、シーズン初期は滑っただけ上達を感じられて毎日楽しかった。元々他人とあまり張り合おうとも思わないマイペースな性格なので、あまり焦りなども感じずに、新人戦選

考会までは心の余裕がある中でスキーを楽しんでいた。しかし、新人戦選考会は苦い経験となった。経験者で始めたこともあり、5位には入ろうと思っていたが、総滑では外脚をとばし、小回りではゴールしながらコケたので、8位という順位は仕方がない。順位より悔しかったのが、ミスを2つもした原因だった。当日も朝から練習し、絶好調であったため割と自信があったのだが、それが裏目にでて、どこかで気が緩んでいたのだと思う。とはいえ、今となってはあの時に悔しい思いをしてよかったと思う。その後の藻岩での練習では、「練習だから」をいう思いは捨てて、一本一本本番同様と考えて本当に大切に滑ることができた。精神的にも成長できたと思う。

しかし、藻岩での練習も残り3日というときに大きなケガをした。歩けないし、足首も全然曲がらなくてブーツも履けなかったが、岩岳に着いて気合でブーツさえ履けばきっと何とかなるという謎の自信をもとに長野に行った。そして迎えた練習日1日目、絶望を味わうことになった。ケガをした足首に全く力が入らず、加重したカービングターンどころかレールターンもできず、ハの字で超スロー、まるで初心者レベルだった。普通に考えたらわかるはずのことなのだが、日常生活で力が入らないのに、ブーツを履いたら突然治るわけがない(笑) 初日でこのことが発覚し、出場するか棄権するか迷いに迷った。いつものように滑っている同期を見ているのが、本当に辛かった。師匠や同期女子にさんざん相談させてもらい、泣きまくり、結局出場した。みんな、自分のことで精一杯なはずなのにたくさん支えてくれて、本当に感謝しています。結果は55位、ケガ前までに考えていた表彰台にはかすりもしなかったが悔しさはなくて、何とか出場できてみんなと気持ちを分かち合えたことがただただ嬉しかった。来年こそは万全の状態でもって出場して、絶対に結果を残すと誓う。

ケガのためこのようにして2月末でシーズンを終えたので、滑走日数も同期の中では1番少ないし、たくさんの課題を来シーズンに持ち越してしまった。良い結果も1つも残せておらず、師匠には本当に申し訳ないです。来シーズンの目標は上に掲げた通りなので、しっかり回復して、来シーズンはその分まで取り返し、更なる上達を目指して頑張りたい。

今シーズンは辛い事もあったが、何とか乗り越えて、精神的にとっても成長できたと感じている。エレで過ごした1年は充実していて、本当にエレに入ってよかったと思う。

最後に、忙しいなか丁寧に教えてくださり、たくさん支えてくださった師匠、先輩方、OB・コーチの方々、一緒に滑ってくれた兄弟弟子をはじめ同期、スキーに打ち込ませてくれた家族に本当に感謝しています。ありがとうございました。

奥山誉

この一年は、本当に充実しすぎていて、もう一年がたったのかと驚きを隠せない。入学当初は、そもそもサークルに入るかどうか決めてなく、大学で楽しく勉強できればいいなとしか考えていなかった。しかし、大学の部・サークル勧誘にかなり圧倒され、あの莫大な量のピラのなかで僕が惹かれた言葉が「基礎スキー」であった。そんな中でも、エレガントスキー部は、雰囲気がとてもよく、先輩方がやさしく接してくれたので、入部することにした。

そんなこんなで入部はしたが、自分の性格上、何もかもが生半可な気持ちでこなしていたので、シーズン、オフシーズンともになにも達成感が感じられなかった。

オフシーズンから振り返る。スキーといえば体幹が大事であるということしか知らず、トレをするようなドリルや、LSD、動的ストレッチの意味をまったく理解していなかった。先輩に言われたことをそのままこなすだけ。もちろん人のまねをすることは重要で、スキーでも生きてくるが、何をすることで、どこでどのように生きてくるのかを考えたうえでこなすことが大事であると思った。一方で、僕はインラインスケートを一生懸命、できる限りたくさんこなした。はじめての経験で、夢中になりすぎてむしろ勉強の方がおろそかになるくらいだったが、そのおかげでシーズン初期はスムーズに上達した。ただ、昨シーズンを過ごして、特に大回りで修正すべき点がたくさん見つかった。先輩方もおっしゃるように、インラインで大回りを劇的に変えられるので、日々のゲリラトレに積極的に参加し、明確な目標を掲げてシーズンにつなげたい。

次にシーズンを振り返る。新歓合宿で掲げた、「一級取得！」は、無事達成できたが、エレとして一年を過ごして、あまりにもぬるすぎる目標だったとすごく思い知らされた。僕自身、シーズン終わるまでずっと一級を取得できればいいとしか考えておらず、今だから言えるが、岩岳では、「まあ、1ポイントさえ取ればいいや」、朝里でも「一級検定のために少しでもバーンに慣れておこう」とかなり生半可な気持ちだった。周りは、「岩岳で10位代に入りたい」だったり、「朝里で準決まで上り詰めた」と確固たる良い目標を掲げており、こんな甘い自分が納得のいく成績をとれるわけないと今でもシーズン中の自分を責めたくなる。結果としては、岩岳でポイントを取れず、また朝里で準決にもいけなかった。

メンタル面での技術の伸び悩みはもちろんのこと、もう一つ後悔していることがある。それは、スキーノートだ。シーズン初期は、師匠、先輩から教わったことを一言一句逃さずメモにとっていた。むしろオフシーズンの師弟トレから書き始めていた。自分で整理していたおかげか、上達は早かったとおもいうが、正月が明けたあたりから書かなくなり、そこから急激に上達が遅くなったと思う。家などで一旦冷静に考え、まとめることで、自分に合う理論を取捨選択でき、また自分ならではの理論を構築できるはずである。しかし、たくさん学ぶ機会があった藻岩時期では、先輩方から学ぶ一方で、取捨選択できず自分の理論を構築できぬままおわってしまった。そのせいで、頭がパンクしていて、滑るたびに自分が意識すべきことを考えぬまま、ただただ無駄な時間を過ごしていた。

今、去年のことを思い返してみると後悔しか思い浮かばない。だが、大学でのスキー人生は始まったばかり。今シーズンに向けて修正する余地はたくさんある。遠い目標にのみ重きを置くのではなく、目の前にある目標を達成すれば、いつ何時でも結果はついてくるだろう。まずは、自分の理論の構築から始めたい。

以上

加納啓行

オフシーズンの振り返り

私は週一のバスケが嫌でエレに入るのを躊躇していたが、今では入ってよかったなーと感じることが多い。エレの部員は良くも悪くも真面目なので、そんなエレに上手く馴染めるのか、6月くらいまではそんなことを思うことが多かった。特に、飲み会の雰囲気は全くの別物だったので、馴染める本当に心配

だった。しかし、日にちを重ね、部員一人一人と仲良くなるにつれ、気の合う仲間や、同じように思っていた人も居たんだなぁと言う事に気づいた。今ではエレでも上手くやれているのでは??と自負している。

週3回のトレでは、今までスキーのためにトレーニングした事など無かったので、本当に効果があるのか疑心暗鬼のまま、トレに励んでいた。しかし、シーズンが終わり去年のトレを振り返って見ると、今も疑心暗鬼のままだった。今年は効果を期待したいと思う。

オンシーズンの振り返り

シーズン初期はオーズだったのだが、トイレットペーパーと呼ばれる幅の狭い凍ったバーンを滑るのが嫌であり行っていなかった。なお公式連は師弟揃って面白くとても充実していた。

基礎スキーはじめての大会は札幌予選だった。なんとなく滑ったら予選通過してしまった。2回目の大会である北海道予選はブーツの当たりが痛すぎてほぼ何もしてない。4万円飛ばして行ったが結果が悪かった事は言うまでもない。来シーズンは行かないと思う。というか行きたくない。さて、大会が終わるとメイン合宿やポール合宿と言った合宿があったが内容は薄すぎてほぼ記憶にないが面白かった気がする。そして2月は地獄の藻岩時期だ。クソ寒い中一日9時間も滑っていた。あまりにも長すぎるので皆の滑りが迷走して行っていた。そのせいなのか北海道のカッチカチのバーンで調整したせいなのかは分からんが、本命である岩岳大会のユルユルバーンで1年目は見事に撃沈した。そんな中私はたまたま1年目の1位を取ることが出来た。しかしヤツがいる限り今後私が1位になる事は2度とないだろう。さて、最後の大会は朝里大会だ。大回りが下手すぎて足を引っ張られる中、小回り系で何とか順位を維持し、決勝まで行く事が出来た。今年の成績はヤツと比べればあまり良くはないが自分の中では上々だと思った。来年は個人戦に出ることを目標にして頑張っていきたいと思う。

黒田京佑

自分は北海道に来たからには何かウィンタースポーツスポーツをしたいというよくある理由でエレに入ろうと思った。自分は持病がありスキーは危険を伴うスポーツであるため不安があったが、持病を持ちながらもスキーを続けていくための対策を時間をかけて考えていただいたり相談に乗っていただいた先輩方には大変感謝しています。

オフシーズンについては高校の部活は緩く筋トレはほとんどやってこなかったのが筋トレなどはついていくのが精いっぱいだったが、シーズン前には体力や筋力がついてきた実感があったので筋トレはしんどかったがうれしい一面もあった。ただインラインは足に合うものが無く痛みを我慢して練習していたためやる気が出ず、ほかの人よりも全然練習しなかったのが今年自分のインラインを買って暇があるうちにしっかり練習していこうと思う。

シーズンが近づいてくると「早くスキーをしたい!」という気持ちと「初心者で運動神経が悪い自分がちゃんと滑れるだろうか」という不安があった。いざ始まると先輩方が丁寧に教えてもらったのでほんの少しずつでもできなかったことができるようになっていくのがすごくうれしく、何よりも楽しかった。またそれまでスポーツは感覚でやるものだと思っていたが先輩方がみんなしっかり理論を持って練

習していたのですごいと思い、かなり新鮮なものだった。最初のころは下手でも基本からしっかりやろうという気持ちでできていたが、後傾などの悪い癖がひどくその改善に時間をかけているうちに同期がどんどん次のことに挑戦して実力差が開いていくことに焦りを感じた。そのはずなのに勉強に追われ初～中期は十分に練習に行かず必然と新人戦選考会の結果は悲惨なものとなってしまった。悔しさ、悲しさ、自己嫌悪とかあったが全て押し殺して岩岳で挽回しようと思いシーズン中で最もモチベーションが上がっていた。しかしその矢先数日後のポール合宿で怪我をして一週間スキーをできなくなってしまい、その間に押し殺していた負の感情が戻ってきて、さらに追い打ちをかけるように頑張ったはずの勉強の開示された成績が悪く正直メンタル的にきつかった。復帰後にもまた何度もこけて脚の筋が痛く辛かったものみんなが頑張っているすがたを見てなんとか頑張れた。スキー自体がずっと楽しかったのも大きかったと思う。そして岩岳前ラスト数日くらいの練習の際にある先輩からかけてもらった言葉のおかげでそれまでの自分の甘さやスキーに対する姿勢としっかり向き合えたことで、何かスイッチが入った気がした。ここがスキーへの考え方や精神的なものへの大きな転換期だった。そのおかげで岩岳・朝里大会ではもちろん緊張はしたもののいつも通りに滑れるようにしようという心の余裕を持って挑めた。岩岳で小回りが上達したねとほめてもらえた時はそれまでで一番うれしかった（あとでビデオを見返すと正直これでいいのか？という滑りだったが笑）。最終的に2級にとどまってしまったのでまずは来シーズン早めに1級をとりたい。

来シーズンの目標

昨シーズンは圧倒的にほかの同期より滑走日数が少なくこの実力差は必然としか言いようがなく、去年のようなタラレバは繰り返したくないので来シーズンは何かを言い訳にせず、まずは初期からしっかり練習回数を増やして後悔の無いシーズンにする。

同期の中でたぶん一番こけておりそのせいで怪我を結構したのでオフシーズン中に去年以上にスタビラとスラックラインで体幹とバランスを鍛え、いろんなトレーニングを通して疲労の溜まりにくい身体をつくる。精神的なものとしては急斜面、高スピード、コブなどいろんなことに対してビビり過ぎていたので恐怖心をなくしていきたい。またシーズンの途中からは闘争心が弱まっていたので上達に貪欲になり、尚且つ追い込みすぎないようにしようと思う。

最後に、初心者の方に一から丁寧に指導くださった先輩方やコーチの方々ありがとうございました。来シーズンは悔いの残らない充実したものにしていけるようがんばります！

坂口慎治

まずオフシーズンを振り返る。水曜、土曜のトレーニングは体幹などが大変だったが、月曜日のバスケットボールは普段は話しにくい上級生とコミュニケーションがとれるいい機会となっていた。インラインスケートは何度か河川敷に足を運んだが何かを得られた感触は少なかった。今考えるとスキーの動きを知らな過ぎたためだと思う。1シーズンスキーをして得られた感覚を二年目のオフシーズンには活かしたいと思う。

次にシーズン中について振り返る。学校がある期間は最低限しかスキーに行かず、新人戦選考会ではかなり悔しい思いをした。二週間ほどスキーに行かない期間ができてしまい、そこまでで掴んでいた感覚がぬけてしまった。継続してスキー場に通うことが大切だと感じた。そこからいわゆる迷走時期に入ってしまった。自分の動画を見ても善し悪しが分からず、自分では滑りをなおすことができなかつたので、師匠や先輩、同期に客観的に見てもらい指摘されたことをひとつずつ直していた。その結果、岩岳では雪質が悪く思うような滑りはできなかつたものの、新人戦でポイントをとるという最低限の目標はクリアできた。その後東北連大会に出場した際、岩岳とも北海道とも違う雪質で滑る貴重な経験をした。また、ここで簡単なこぶに何度も入り、こぶに馴れるきっかけとなった。朝里大会では準決勝まで残ることができ、初めて自分の成長を実感することができた。準決勝ではまだまだコブを滑れないことが明確になったので、そこから一級を受けることもありコブをメインに練習した。春練の柔らかいコブに何度も入ったこともあり、簡単なコブなら一通できる程度まで成長でき、さらに一級もとることができた。

来シーズンは、自分の理論をしっかり持ち、それを実行しながら道予選出場を一つの目標として頑張りたいと思う。

嶋田泰大

ついに1年目のシーズンが終わってしまいました。シーズンを通してスキーが楽しいと思いつけることができたのは、とても幸運なことだと思っています。一番スキーが楽しかったのはシーズン初期と3月でした。早く上手くなりたくて、そして同期と差をつけられたくなくて、初期は馬鹿みたいにスキーに行きました。初期オーズは怖かったのでひたすら国際に行きました。大学に行くべき日にスキー場に出向いたことも何度かありました。滑るのが楽しくて、教わるのが楽しくて、上手くなるのが嬉しくて、とにかくスキーのことしか考えていませんでした。3月は教わる機会があまりなかつた分、苦手な悪雪の中をどうやって滑ろうかと考えたり、今まで教わってきたけれど出来ていなかったことを試してみたりと、自分なりに上手くなることができ、楽しかったです。また、朝里大会の敗者復活戦では、自分が納得できるような滑りをすることができ、自分の中で良い終わり方をすることができました。

とはいえ、スキーは楽しいことばかりではありませんでした。どんなにスキーに行っても、同期とは差が開くばかりだということは、初期のころから気づいていました。しかし、新人戦選考会で初めて同期内で順位をつけられ、16位になったことは悔しいというか、ああ、やっぱりか、と自分に失望しました。藻岩時期は地獄でした。自分とは対照的に、どんどん上手くなっていく同期を避けるように一人で先輩に教えてもらいに行ったり、一人で滑ったりしていました。そうして迎えた岩岳。結果はあの通りです。

岩岳後、10日間くらいスキーから離れたことは僕にとってプラスに働きました。岩岳での絶望感は薄れてバネにできるくらいの悔しさに変わり、スキーなんてもうしたくないという気持ちも、早くスキーがしたいという気持ちに変わりました。その後の楽しさは、さっき書いた通りです。

短いようで長かつた1年目。僕ひとりでは1シーズンこんなにスキーに打ち込むことはできませんでした。教え、励ましてくださったコーチや先輩、スキーに打ち込んでいた同期がいたからでした。ありがとうございました。

大學由衣

私は、北海道に来たからといってスキーをやろうという考えは全くありませんでした。ある友人が、エレの新歓行事に誘ってくれたのがきっかけでエレを知り、人生初のスキーを経験しました。怖さもあったけれど、スキーの楽しさ、何よりエレの雰囲気の良いさに惹かれて入部しました。

オフシーズンのトレから、ゆっくりでも、周りから少し遅れてでも良いから、ちゃんとやろうという思いで頑張りました。けれど、シーズンが近付くにつれて本当に大丈夫なのかという不安は膨らむばかりで、シーズン中もどんどん上手くなる同期に焦りを感じていたし、指導してくださっているのに上手く出来ない為、先輩方にも申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

いつしか、新歓で感じた楽しさを忘れていたように感じます。そんな中、新人戦選考会で足を痛めました。順位なんてものはどうでも良かった、ただ最後の種目まで滑り切れなかったことが悔しくて涙が止まりませんでした。

その後の藻岩時期では、少しは出来るようになっていた事が出来なくなって、スキーに対する恐怖心が人一倍強くなって、バーン上に立つと足も震えてきて、そんな自分が情けなくて、辛くて、どうしたらよいか分かりませんでした。あまり乗り気がしないまま迎えた岩岳でポイントを取れた事や検定2級に合格した事は、今でも奇跡だと思っています。

最後に、頑張ろうと思える一番の原動力となった師匠、1から丁寧に教えてくれた先輩方、私のゆっくりとした練習に付き合ってくれた同期に感謝します。こんな私を見捨てずに支えてくださり、ありがとうございました。

選考会での転倒が脳裏をよぎって離れなくなって以降、怪我せず最後まで滑り切ることを考えて今シーズンが終了しました。来シーズンはスキーの楽しさをもう一度思い出すことから始めたいと思います。

反保智之

この1年間は今まで生きてきた中で一番早く時間が過ぎた様な気がしました。それだけ濃い1年間だったと思います。僕がエレガントスキー部に入ることを決めたのは新歓スキーがきっかけでした。新歓スキーがとても楽しかったのでエレガントスキー部に入ることにしました。

オフシーズンは大変なこともありましたが楽しかったです。トレでは今までやったことのない体の使い方や動きが多く分からないこともたくさんあり、十分に理解することができませんでした。ですがトレも楽しく充実した日々を送れました。今年のオフシーズンは楽しみながらこの反省を生かしシーズンへとつなげていけるようなオフシーズンにしていきたいと思います。

シーズンに入ると最初の方はスキーがただただ楽しかったです。しかし徐々に日数がたつにつれ2級をとる人が出てきたりし始め自分の滑りが全然上達していかず焦りも感じだしかなりつらかったこともありました。選考会も岩岳も含めシーズン中自分に自信を持てずよく分からないまま滑ってしまっ

いた様な気がします。三月になんとか2級をとれたことは嬉しいことは嬉しかったのですが、やっとシーズン最後になってとれたんだなぁという気持ちの方が大きかったです。シーズン通して自分なりに自分の滑りをいろいろ考え変えられるよう滑っているつもりでした。ですが春練でいろんな人の話を聞いたりして思い返すと自分はただただ滑っていただけで変えようとしていなかったように感じました。自分の動画やひとの動画を見たり、研究し考える時間が少なかったなと思いました。もっと成長できる可能性があったのにもったいないことをしたなぁと思っています。

来年の spur にはもっとマシンなことからオフシーズンから意識してもっとスキーに貪欲に1年間過ごしてきたいです。またこのシーズンが毎日のようにスキーに行くことのできる最後の年なのでスキーについて考える時間もじっくりとりながら、たくさんできる限り滑りに行きます。

辻悠希

昨年を振り返ろうと思う。オフトレは楽しかった。が、スキーにどうつながるのかの意識が足りなかった。今年は意識してトレーニングしていけたらと思う。また、既に自明かもしれないが、一年を通して自分は意識というか、モチベーションというか、やる気というか、諸々が低かった。インラインもあまり自主練せず、お金がやばいと気づいた後期からバイトを始めるという残念な状況になってしまった。受験から解放された反動で馬鹿みたいに遊んでいたからだろうか。シーズンインしても、平日にスキーに行くことに違和感を感じ、年が変わるまでの滑走日数はたぶんエレ内では最低日数だっただろう。その意識は年が変わってからも続いた。後期は勉強に集中していたからというのもあるだろうが。その結果新人戦は悲惨な結果だった。特に最初に滑った総滑でありえないくらい緊張し、今までやってきた練習の成果が一切感じられないような赤ちゃんな滑りだった。しかし、一本目で緊張がほぐれたおかげか、小回りりと大回りはまあまあ出来だった。が、やっぱりその二つがまあまあできたことで総滑の失敗がとても悔しく感じられた。そんなこんなで藻岩時期に入った。そのころはスキーに対して楽しいとか辛いとかの感情は一切抱かなかった。息をするのが当たり前のように、スキーをすることが当たり前で淡々と日々をこなしていた。しかし、藻岩時期後半に革命がおこった。スキーが急に楽しくなったのだ。理由はよくわからない。講習で、何か今までにはなかった感覚をつかめたのだろうか。それとも板の上に載って滑るという動作に体が馴染んだのだろうか。正確なことはわからないが、ある日を境に自分は日に日にスキーにはまっていった。だが、それが遅すぎた。たぶん滑走日数が少なかったのが原因だろう。もっと早い時期から滑りに行っていればもっと早い時期にはまっていたのかもしれない。だからこれを読んで一年生(そんな奴はいないかもしれないけど、ていうかそんな奴にこのアドバイスはいらないかもしれない…)にはシーズン初期からガンガン滑りに行くことをお勧めする。そうすれば一回スキーに飽きても、シーズンが終わるまでにまたはまれるだろうし。もちろん自分も来シーズンは年が変わる前から滑りに行きたいと思う。実験に追われていなければ…。話を戻そう。スキーにはまるのが遅かった辻少年は、やはりスキーの技術もあまり高まっておらず、緊張と荒れたバーン状況も相まって岩岳小回りでこけてしまった。総滑がポイント圏内にただけに悔しかった。朝里大会でも、大回り、総滑、プルークだけならかなり良かったが、小回りが悪く準決勝進出を逃してしまった。予選では緊張しなかったが、敗者復活戦では緊張してしまい、大回りのゴール直前に真横へ飛んで行ってしまった。1級

も落ちてしまったが、正直3月の滑走日数はエレ内で1位である自信がある。いや、上位5人に入る自信はある！から3月に関しては悔いはない。ただもっと早くからスキー場に行くことを習慣づけられていたらと思う。

以上のことから、来シーズンの目標は

- 滑走日数 100 日
 - 小回りとコブを上達させ 1 級取得
 - 本番で緊張しないように練習の一本一本を大事にする
- である。とりあえず、筋トレとインラインをがんばりたいと思う。

永井健

この SPUR を通して去年 1 年間を振り返ってみる。

自分がエレガントスキー部に入った理由は、新歓時期に参加したスキーが思いのほか楽しかったからである。スキー経験がほとんどなかった自分にとってスキーはとても新鮮であり、もっとうまくなれたらいいなという思いでエレに入った。

まずはオフシーズン。何だかんだ楽しかった。自分は中学高校とバスケットをやっていたので月曜のバスケットレ、バスケット大会は楽しむことができた。水曜トレや土曜トレに関して、トレの内容自体は正直好きではなかった。自分は前から筋トレや体幹トレーニングが嫌いだったので、大学生になっても自分がスタビラをやっているというのは想像できなかったし普通にしんどかった。だがエレのメンバーと一緒に活動することは楽しかったのでトレを続けることができた。オフトレの反省点とすれば、インラインにももう少し力を入れればよかったということだ。正直自分はインラインが下手なので今年は積極的にやっていたと思う。

続いてシーズン中について。シーズン初期はとても楽しかった。スキー場に行くたびに自分の成長を感じた。特に、ブルークから始まりシュテム、パラレルと滑れるようになっていったときはスキーが上達していく楽しさをとても実感できた。だがシーズンが進むにつれてスキーの上達が伸び悩んでいるような気がした。周りの同期はめっちゃくちゃうまくなって級とかも取り始めているのに自分はまだまだ技術が身につけていないなという不安があった。新人戦選考会までにはできるだけ追いつこうと思っていた。

そう思っていた矢先にケガをしてしまった。1月21日のポール練で右足の靭帯をやった。周りが新人戦に向けて練習する中、周りが藻岩で一日中スキーしている中、自分は家でぐーたらせざるを得なく、スキー復帰できたのは岩岳壮行会3日前だった。スキー部なのに2月中は糞暇だし、復帰できてもスキーに対する恐怖心を持ちながら滑っていたのでこの時期は精神的にはきつかった気がする。そのおかげで岩岳ではネタにできるレベルの滑り、点数をたたき出すことができた。朝里もふがいない結果となった。けどケガで全然練習できなかったからしょうがないと自分に言い訳していた（今でもしている）。

今、自分は同期の中でも一番スキーが下手だと思っている。まあそれはケガのせいだと言い訳しているのでそこまで深くは意識していない。だが、次のシーズンに入ったらもうそのような言い訳は通用しない。シーズン始まったら周りの同期に追いつけるようにスキーを頑張りたい。

今年の目標
“ケガをしない！”

以上

西田ひかり

Spur ということでせっかくの機会なので今までの自分とスキーについて振り返ってみます。

私は家族の影響で小さい頃からスキーをしていました。親はかなりスキーに力を入れていましたが、私は検定やスクールが嫌いだったのであまり聞く耳を持たず、楽しく滑ることしかしてきませんでした。しかし、せっかく北海道に来たので今度はしっかりスキーをやってみようと思い、さらに先輩方の PV がかっこよすぎてエレに入部しました。

いぎシーズンになりいろいろなことを 1 から教えてもらい、スキーに対してあまり考えながら滑ったことがなかった私はかなり戸惑いました。体のどこをどう動かしたら良いかがわからず、言われたことができずに真剣に悩みました。しかし、ある時の練習で体の動かし方が少しわかり、やっとスタートに立てたという感じでした。また練習は楽しかったのですが、今まで部員内で競うという経験がなかった私は新人戦選考会というイベントがずっと恐怖でしかありませんでした。結果は自分としては良くないので、思い出しては何日も泣いていました。しかしこの時師匠に岩岳でもう一度頑張ろうと励ましてもらい、師匠のためにも絶対良い結果を残そうと心に決めました。岩岳は新人戦 12 位を取ることができ、悔しい思いを一旦晴らすことができました。朝里大会では新人戦 5 位を取ることができましたが、準決勝のコブで大失敗し、またかなり悔しい思い出になりました。また、怪我をして春練にはほとんど行くことができなかつたので遅れをとってしまいました。来シーズンはくやしきも忘れずに、初期オーンズにしっかり通い、基礎から詰めていきたいです。また、コブに対してかなりの恐怖心と苦手意識があるため、来シーズンはコブをまともに滑れるようになることを 1 つの大きな目標とします。また、順位について考えるのが苦手なので考えすぎず、エレの岩岳の目標に貢献できるように、自己の技術を伸ばしていきたいです。最後に師匠をはじめ、丁寧に教えて下さった先輩方、励ましてくれた同期のみんな、1 年間ありがとうございました。来シーズンもよろしくお祈いします。

林大祐

僕は高校の頃から北大合格が決まったわけでもないのに、基礎スキー部かエレガントスキー部に入ろうと決めていた。しかし、練習頻度や PV、大会成績などを見てもどちらにするのが自分に適しているのか判断できないでいた。結果、新歓スキーの時に見たエレの先輩の滑りが今までスキーを教えてくれた先生に似ていたこと（直感的にだが）がエレに入部した決め手になった。

オフシーズンは本当に充実していた。エレに身を置いていること、居場所があることにある意味安心感があり落ち着いて大学生活をスタートできた。また、週3回の活動のおかげで暇になることもなかった。正直、トレは何がスキーにつながるのかわからないまま淡々とこなしていた気がする。同期や先輩と会うのが楽しみで行っていた。インラインはやればやるほどできる動きが増えていき楽しくなり、ゲリラインラインも積極的に参加した。振り返ってみると、オフシーズンはインラインばかりしていた。

最初はスキーを楽しんでいるうちに自然と上手くなればいいという感覚でいたため、先輩が週5〜7でスキーをしていたという話が信じられず、自分はそんなふうにはならないだろうと思っていた。しかしシーズンが始まるとその感覚が徐々に変わっていった。今までの滑りの爽快感を得るスキーではなく、ビデオを見て試行錯誤しながら自分の滑りを作り上げていくスキーに新しい楽しさを見出していた。気が付くとスキーにのめりこみ、スキー中心の生活になっていた。

ずっと楽しい気持ちのままシーズンを過ごしたいと思っていたがそう甘くはなかった。他人と自分を比べ、考え込む悪癖があるため、元々上手い兄弟弟子と上達の早い兄弟弟子に置いて行かれているような感覚だった時期がある。迫力のある滑りをする2人と、迫力のない滑りをする自分を比較していた。スキー自体はやりたいのだが、公式練は憂鬱だった。そんな不安定な感情を持ったまま新人戦選考会で不本意な結果を残し、藻岩時期に突入した。藻岩時期のいつ頃からだったかはよく覚えてないが、僕は意識を変えるようにした。兄弟弟子との比較を一切やめ、自分の滑りと目標の滑りだけを見るようにしていった。全日本選手のビデオから種目ごとに好きな滑りを一つ決め、それと自分のビデオを見比べて滑りを近づける練習を続けた。もちろん、先輩とコーチに教えてもらったことも練習した。このころからスキーの楽しさがよみがえってきた。自由に滑れる時間が増えたことも影響したと思う。

岩岳は楽しくて仕方がなかった。全国大会という今まで経験したことのない大舞台の緊張感が新鮮だった。スタート直前の緊張はなぜだか浪人後の大学入試直前に似ていた。経験のある感覚だったためあまり緊張にとらわれずにスタートすることができた。浪人の経験がこんなところで生きるとは思わなかった。これからの大会も同じように感情をコントロールして臨めたらいいと思う。選考会前後に気にしていた同期内の順位は一切関係なく、全員心から応援することができた。同じ大学生でありながらプロ顔負けの滑りをする選手もたくさん見られたため、いい刺激になった。

最後に、今シーズンご指導してくださったコーチの方々、先輩方、一緒に滑ってくれた同期、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

春口菜帆

私がエレに入った理由は、家族と数年に一回行くスキーがとても楽しく、中高は部活動が忙しくてスキーに行けなかったのだけど、エレに入ればほぼ毎日滑れるなんて最高すぎると思ったことと、大学からでも始められる新しいスポーツを試みたかったからである。そんなこんなでエレに入り、気が付けばあっという間にもう1年が経っていた。エレで過ごした最初の1年を振り返る。

オフシーズン中は、元々体を動かすことが好きなこともありバスケやアルティメットをはじめ様々なスポーツをすることができて楽しかった。インラインは時間があるときに積極的にできてよかったと思

う。今年もインラインは時間を作って練習して来シーズンに繋げられればいいなと思う。シーズンが始まる前は、前期であまり成績が取れなかった分を後期で取り返さないと、という不安と、上達できなかったらどうしようという不安が入り混じり、シーズンが始まるのを少し怖いと思っていた。でもいざシーズンが始まってみると、全休を使って平日に人の少ない国際スキー場で先輩方や同期と一緒にたっぷり滑るのが楽しくて、そしてだんだんと滑れるようになるのが楽しくて、結構スキー場に行っていたような気がする。そんなこんなで最初の不安はすぐに消すことができ、キロロの学生検定や新人戦選考会も納得のいく結果を残すことができた。2月の藻岩時期、私的には手を抜かずに頑張ったつもりだったが、気持ちが抜けていたのか率直にあまり成長できた実感が得られなかった。後で思い返せばこの時期にもう少し成長しておきたかったなと思う。迎えた岩岳大会では思うような結果が出せずとても悔しかった。岩岳での悔しさを晴らそうと頑張った朝里大会、初日の新人戦でプルークの下手さが露呈し準決勝に上がれなかった時はどうしようと思ったが、結果的に4日間大会バーンで滑ることができ決勝までいけたので良かったと思う。ただ苦手なコブで上位の方々にすごい差をつけられてしまっていたので、漠然とどうにかしないと、と思ってはいた。その後すぐにあった朝里検定ではそのコブでミスが出たこととほかの種目でもそれを補うことができずに悔しい結果に終わってしまった。もともとシーズンが始まる前に立てた目標がシーズン内に1級をとることであっただけに、とても悔しくまた師匠にも申し訳ない気持ちでいっぱいだった。来シーズンはまずたくさんコブに入り余裕をもって1級を取れるくらい滑れるようになり、大会でよい結果を出したい。

最後に、この一年間支えてくださった先輩と同期には本当に感謝しています。特に師匠と兄弟弟子のおかげで楽しくシーズンを終えることができました。ありがとうございました。

半田久純

今から昨年を一つ一つ振り返る。正直、今この文章を書いていて、もう自分がSPURを書くような時期になったかと時間の早さに驚いている。今年1年充実していたんだなと思えるのでよかった。エレに入って1シーズンを終えて思ったことは、やっと1つスポーツに打ち込める部活に入れたなというのが正直な気持ちである。中学の頃は周りに問題児が多く活動停止や出場停止をしょっちゅう食らっていた。高校では最初中高一貫に途中から入学したこともあり部活には入らなかった。そういうこともあり、大学でスキーというスポーツに出会い打ち込めたというのは自分にとって大きなことだった。過去の話はこの辺にして今年1年を振り返る。

オフシーズンはぶっちゃけあまり覚えていない。ただ中学でバスケをやっていたこともあって、週一回のバスケは楽しかった。またインラインで坂を滑り降りたりするのも楽しく、シーズン前はよく河川敷に行っていた。あとは今年は災害が多くたくさん行事がなくなってしまったのはとても残念だったなあって感じです。

そうこうしているうちにシーズンインしていた。シーズンを通して思うことはやっぱり師弟の存在が大きかったなと思う。師匠の廉平さんには本当にお世話になった。スキーに関してほかの色々なことに関して学ぶことが多かった。廉平さんと菜帆と3人でリフトで会話したりするのは楽しかったし、毎週の公式練は楽しみだった。廉平さんの弟子二人で新人戦選考会でそれなりの結果を残せたときはう

れしかった。またこの時期くらいから先輩とのつながりが出来始め、スキー場ではよくお世話になっていた。先輩方には本当によくしてもらったなと思っているので、今年から同じように後輩に還元していきたいと思う。スキーの練習にもたくさん行った。選考会1週間前は期末をほったらかして毎日スキー場に行った。後期の成績は本当に終わっていたが、無事希望通りの移行先に行けたのでよかった。スキーに話を戻すと、岩岳までは順調にこれたなというのが感想である。岩岳では総滑はいまいちだったが全体としてポイントもとれたのでまずまずだった。ただ、岩岳が終わり休み明けの朝里大会は最悪だった。板を踏んでいる感覚が全くなくシーズンの締めくくりは後味が悪くなってしまったなと思っている。ただ今シーズンの目標であった1級の取得は達成することが出来たのでよかった。

内容のベライことしか書いていないが来シーズンの目標を書いて閉めようと思う。

来シーズンの目標

・道予出場

穂積侑伽

初シーズンはとても長く感じた。シーズン初めから振り返ってみると、まずキロロ検定に落ちた。エレでその時2級落ちたのが私だけだったので本当に辛かった。その時に号泣していると先輩に慰めて貰って本当に勇気付けられた。次2級取るときは絶対受かるぞ、という気持ちでスキーしていたらその2日後、12/24に国際でガンガン滑っていたらコケた。内側側副靭帯を損傷して3週間滑るなど医者に言われた。当然メイン合宿は欠席。2週間後に復帰するも膝は痛いし思うように滑れなくてイライラした。その後新人戦選考会も終わり、そろそろいけるかなと思い2級を受けたらギリギリ受かった。安心した。2月の寒い藻岩時期を乗り越え岩岳に挑むも決して満足のいく結果ではなく本当に辛くてまた号泣した。サポートをしてくれていた先輩がずっと慰めてくれたので本当に助けられた。しかし、結果に萎えていたのでしばらくはスキーをしたくなかったがその次の日に長野に残留して1級を受ける予定だったので憂鬱な気分のまま受けた。そしたらまさかの合格。岩岳の結果が良くなかった分この喜びはとても大きかった。そして、シーズン最後の大会である朝里大会。大会の前日に滑っていると転倒。靭帯と半月板をやった。しかし、ここまできてDSはしたくなかったので気合いで参戦した。敗者復活戦で落ちたものの色々あり準決勝に進出できた。本当に嬉しかった。おこぼれ進出だったので決勝に進むと言ったことは考えずに全力で楽しんで滑ろうと思っていたので自由に滑った。そしたらまさかの決勝進出。とても驚いたし嬉しかった。

朝里大会の最終結果だけ見ると岩岳からかなり伸びたように見えるが、実際整地種目は他の同期に惨敗しているし不整地もお世辞でも上手と言える滑りを出来ていない。今シーズンは自分の得意種目を作ることができなかった。強みがないので不安なまま大会に出ることになってしまった。そこで、来シーズンの目標として自分の強みとなる種目を最低1つ作るということを挙げる。あと怪我をしない。そして、最大の目標として岩岳で〈師匠に勝つ〉ということを掲げる。師匠、岩岳出てくださいね！！

三浦裕斗

北海道に来てスキーするつもりなんて全くなかったのに、気付いたら入っていました。なんとなくで入って気付いたら1年が終わっていました。あっという間だった。オフシーズンは地震や雨のせいで様々な行事が中止になってかなしかったですね。週3あるオフトレは不健康になりがちな生活の中で運動するいい機会だったと思います。とても楽しく取り組みました。ただ、トレの内容は先輩が言うにはスキーに生きてくるものだったそうですが、自分はまったく意識できていなかったのは反省ポイントです。

雪がなくてなかなか始まらなかったシーズン。

いざシーズンインしてみると自分が思っている以上にびっくりするほど滑れない。自分がした事の無い動きが必要みたいで、なかなか上達できなかったです。ここまで上手いかないスポーツは初めてってくらいでした。シーズン中は反省する事でいっぱいでした。周りの同期や先輩ほど熱を持って取り組みなかったことに加えて、なかなか上手くなれない自分とのせいで滑っている時もあまり楽しくなかったです。楽しくなければ当然上手いかず、負のスパイラルという感じでした。

今年は、昨年感じた弱点を克服するためにオフシーズンからしっかりと準備をして、全力で取り組みます。

三好航平

まず初めに、今シーズン熱心にご指導くださったコーチの方々、師匠の長世さんをはじめとする先輩方、同期、支えてくださった全ての皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。来シーズンもよろしくお願いします。

SPUR ということで1年を振り返ろうかなと思います。

○オフシーズン

地震や雨でほとんどの行事が流れてしまいましたが、めちゃくちゃ楽しかったです。高校まで続けた野球の影響でトレーニング=しんどい・キツイっていう方程式ができていたので、こんな楽しくトレができるのは最高でした。ただスキーの経験がほとんどなかったので、このトレーニングがどうスキーに繋がるんだろうという疑問は常にありました。今になって思えば「もっとインラインやっておけばよかった」とか「こういうとこ意識しておけばよかった」とか色々思うところはあります。今年はずっとスキーにどう繋がるかを意識してオフトレに励みたいです。

○シーズン

シーズン直前に3つの目標を立てました。

- ・新人戦選考会5位以内→15位 未達成
- ・岩岳ポイント獲得→151位 当然未達成

・スキーノート毎日書く→達成

今見ると笑われそうな目標と結果ですね。はっきり言ってスキーというスポーツを舐めていました。「スキーくらい余裕っしょ」なんて思っていたシーズン前の自分をぶん殴りたいです。シーズン初期こそスキーを楽しめていましたが、どんどん上手くなる同期を見て焦りを常に感じていました。同期と滑るのは楽しかったけど自分と同期との差を痛感して辛かったです。1月末には右肩、2月には膝を怪我し、思うように練習ができず、同期との差はどんどん広がり岩岳が終わるころには本気でスキーが嫌いになっていました。

嫌いになったと言っても、「このまま負けっぱなしで終わる訳にはいかない」と思い、岩岳後に帰札してすぐにスキー場に足を運びました。そこで何かきっかけを掴み、自分でもわかるくらい滑りが変わり始め、スキーの面白さに改めて気づかされました。2級もようやく受かり、朝里でも順位としては良くなかったものの、ある程度自分で納得のいく滑りができました。嫌いになったスキーも朝里終わるころには好きになっていました。(単純)

この時期にノートを見返すといろいろなことが線で結ばれ、ようやくコーチや先輩から言われてきたことがちゃんと理解でき、「ノート書き続けてよかった〜」って感じです(笑)

2年になりどうにか新歓をやりきり(入部してくれた1年生本当にありがとう!)、シーズン終了っという感じですね。まさかインフルエンザで新歓合宿に行けないとはなあ…(笑) いろんなことがあった1年目でした。

○来シーズンに向けて

目標: 年内1級

個人戦選考会で一波乱起こし、個人戦選手として岩岳に出る
エレの総合優勝に貢献する

自分のような下位層の人間がレベルアップしていくことがエレ全体のレベルアップにつながるので頑張りたいです。そして少しでもエレの総合優勝に貢献したいです。

あとは師匠の長世さんにいい結果を報告して恩返ししたいですね。

改めて、来シーズンもよろしくお願いします!!

以上

吉田昂平

昨年の振り返りをしたいと思います。一年全体としては初めてばかりの環境に慣れることに追われていました。エレでの活動も目の前のことをこなしているうちにあっという間に一年がたってしまったように感じます。

もともと北海道に来たからにはスキーをやってみたくてエレガントスキー部に入部を決めました。オフシーズンはスキーのトレーニングということもあり、難しいことも多かったですが、新鮮で楽しかったです。ただ、ポジションのトレなど実際にシーズンに入ってようやく理解できたこともあったので、今シーズンではよりスキーを意識したトレができるようにしたいと思います。

シーズン中は、師弟制度も含めていつも先輩の誰かに教えてもらえて本当に貴重で充実した時間だったと感じます。教えてもらった基礎練習をするだけで、動きが変わったと実感できたときは感動でした。また、夜中までスキーをしたり、ほぼ毎日スキーをする月があったり、エレに入ったからこそできたことを思うとこのサークルでよかったと思います。反省としては滑走日数が少なかったことと積極性がなかったことだと思います。シーズン初期は全然滑りにいかず、滑りにくいバーンもなるべく避けていました。実際、岩岳や朝里大会では結果を残せなかったので次のシーズンでは練習の質、量ともに高めてもっと上手く滑れるようになります。とりあえずの目標はなるべく早くシーズンの初期に一級をとることです。あと、コブやスピードなど恐怖心をどうにかすること、うまい人の滑りもみて考えて滑ることを目標にします。

この一年間は本当にあっという間でした。今年は二年生という時期を有効に利用したシーズンにしたいと思います。まずはオフシーズンを全力で頑張ります。

農産物の乾燥・貯蔵・鮮度保持のパイオニア

TOMTEN GROUP

TOMTEN (トムテン) は農産物の栽培から収穫・貯蔵・加工・流通・販売に至るまでを応援する総合コンサルティング企業です。オランダをはじめとした世界の農業先進国の技術を日本の農業関係者の皆様にご提案します。



株式会社 TOMTEN

農産物貯蔵庫を専門とする設計・施工会社です。新設倉庫はもちろん、既存の倉庫の改修もお任せください。お客様のご要望に応じた貯蔵施設をご提案します。

Mooij Agro



本 社 〒080-0801 帯広市東1条南7丁目2番地1 TEL: 0155-67-5991 FAX: 0155-67-6609
札幌支社 〒062-0043 札幌市豊平区福住3条7丁目8番16号 TEL & FAX: 011-852-5541
一級農産物貯蔵所(第十四77号)
建設業許可: 北海道知事許可(建)(農)(電)十第03870号



TOMTEN Trading 有限会社

乾燥・貯蔵・鮮度保持技術に関する各種製品を取り扱っています。



本 店 〒062-0043 札幌市豊平区福住3条7丁目8番16号 TEL & FAX: 011-852-5541
帯広支店 〒080-0801 帯広市東1条南7丁目2番地1 TEL: 0155-67-5991 FAX: 0155-67-6609

<http://www.tomten.co.jp>